

AX3S Pro

オンライン マニュアル

DOC. NO: AX3SP-OL-J0006B



マニュアル内容

AX3S Pro	1
マニュアル内容.....	2
はじめに.....	10
クイックインストールの手順.....	11
マザーボード全体図.....	12
ブロック図.....	13
ハードウェア	14
JP14 による CMOS クリア.....	15
JP28 によるキーボード/マウスウェイクアップ.....	16
CPU スロットおよびファンのコネクタ.....	18
CPU ジャンパーレスデザイン.....	19
JP23/JP29 による FSB/PCI クロックレシオ設定.....	23
DIMM ソケット.....	24
RAM 電源 LED および点滅 LED.....	25
PC-Doctor — Dr. LED (オプション)	26



フロントパネルコネクタ.....	28
ATX 電源 Connector.....	30
AC 電源自動リカバリー.....	31
IDE およびフロッピーのコネクタ.....	32
IrDA コネクタ.....	35
GPIO -コネクタ (汎用 I/O) (オプション)	36
WOM (ゼロボルトウェイクオンモデム).....	37
WOL (LAN ウェイクアップ).....	40
4X AGP (アクセラレーテッドグラフィックポート).....	42
CNR (コミュニケーション/ネットワークングライザー).....	43
PC99 カラーコード準拠後部パネル.....	45
USB ポート 4 基をサポート.....	46
JP12 によるオンボードサウンドのオン・オフ.....	47
CD オーディオコネクタ.....	48
ビデオ・オーディオ入力コネクタ.....	49
モデムオーディオコネクタ.....	50

フロントパネルオーディオ (オプション)	51
バッテリーレスおよび耐久設計.....	52
過電流保護.....	54
ハードウェアモニター機能.....	56
リセットブルヒューズ.....	57
JP30 によるダイハードBIOS 設定 (100%ウイルス防止) (オプション)	58
BIOS ライトプロテクション.....	61
西暦 2000 問題 (Y2K).....	62
低漏洩コンデンサ.....	64
レイアウト(電磁波シールド).....	66
24K 純金鍍金ヒートシンク.....	67
ドライバおよびユーティリティ	68
Bonus CD ディスクからのオートランメニュー.....	69
Windows 95/98 での“?”マーク表示を減らすには.....	70
オンボードAGP ドライバのインストール.....	71
オンボードサウンドドライバのインストール.....	72

Ultra ATA/100 IDE ドライバのインストール.....	73
ハードウェアモニタユーティリティのインストール.....	74
ACPI ハードディスクサスペンド.....	76
ACPI サスペンドトゥーRAM (STR).....	83
AWARD BIOS	85
BIOS セットアップの開始.....	86
言語の変更.....	87
Standard CMOS セットアップ.....	88
Advanced BIOS 機能設定.....	94
アドバンスチップセット機能設定.....	103
周辺装置の設定.....	110
パワーマネジメント設定.....	128
PNP/PCI の設定.....	138
PC ヘルスモニタ.....	143
クロックおよび電圧の制御.....	145
デフォルト設定値のロード.....	149

ターボデフォルト値のロード.....	150
パスワードの設定.....	151
設定を保存して終了.....	152
保存せずに終了.....	153
EEPROM から保存データをロード.....	153
EEPROM にデータを保存.....	153
NCR SCSI BIOS およびドライバ.....	153
BIOS のアップグレード.....	154
オーバークロック	156
VGA およびHDD.....	158
用語解説.....	159
AC97 サウンドコーデック.....	159
ACPI (アドバンスド コンフィギュレーション&パワー インタフェース).....	159
AGP (アクセラレーテッドグラフィックポート).....	160
AMR (オーディオモデムライザー).....	160
AOpen Bonus Pack CD.....	160

APM	160
ATA/66	161
ATA/100	161
BIOS (基本入力出力システム)	161
Bus Master IDE (DMA モード)	162
CODEC (符号化および復号化)	162
DIMM (デュアルインライン メモリモジュール)	162
ECC (エラーチェックおよび訂正)	163
EDO (拡張データ出力)メモリ	163
EEPROM (電子式消去可能プログラマブル ROM)	163
EPROM (消去可能プログラマブル ROM)	164
FCC DoC (Declaration of Conformity)	164
FC-PGA	164
フラッシュ ROM	165
FSB (フロントサイドバス)クロック	165
I2C Bus	165

P1394	165
パリティビット	166
PBSRAM (パイプラインドバースト SRAM)	166
PC100 DIMM	166
PC133 DIMM	166
PDF フォーマット	167
PnP (プラグアンドプレイ)	167
POST (電源投入時の自己診断)	167
RDRAM (ラムバス DRAM)	168
RIMM	168
SDRAM (同期 DRAM)	168
SIMM (シングルインラインメモリモジュール)	169
SMBus (システムマネジメントバス)	169
SPD (シリアルプレゼンス検出)	169
Ultra DMA/33	170
USB (ユニバーサルシリアルバス)	170

ZIP ファイル.....	170
トラブルシューティング	171
テクニカルサポート	175
パーツ番号およびシリアル番号.....	177
型式名およびBIOS バージョン.....	178

はじめに



このオンラインマニュアルは [PDF フォーマット](#) ですから、表示には **Adobe Acrobat Reader 4.0** を使用します。このソフトは [Bonus CD ディスク](#) にも収録されていますし、[Adobe ウェブサイト](#) からでも無料でダウンロードできます。

当オンラインマニュアルは画面上で表示するよう最適化されていますが、印刷出力も可能です。この場合、紙サイズは **A4** を指定し、**1 枚に 2 ページ** を印刷するようにします。この設定は **ファイル > ページ設定** を選び、プリンタドライバからの指示に従います。

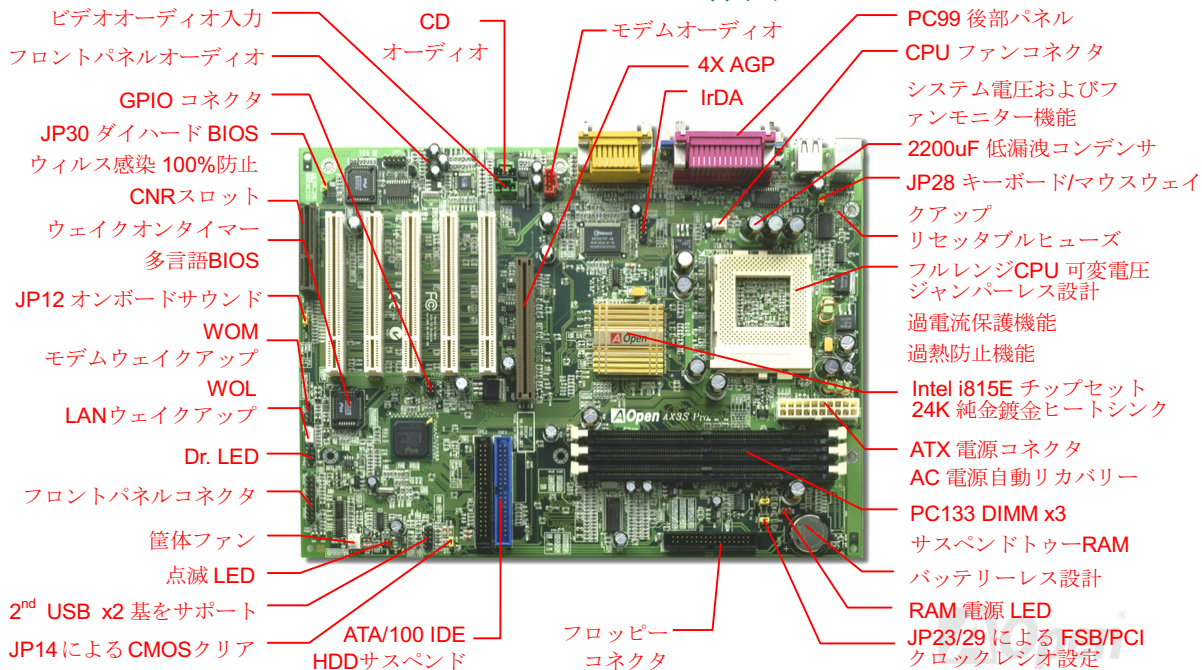
皆様の地球資源保護への関心に感謝します。

クイックインストールの手順

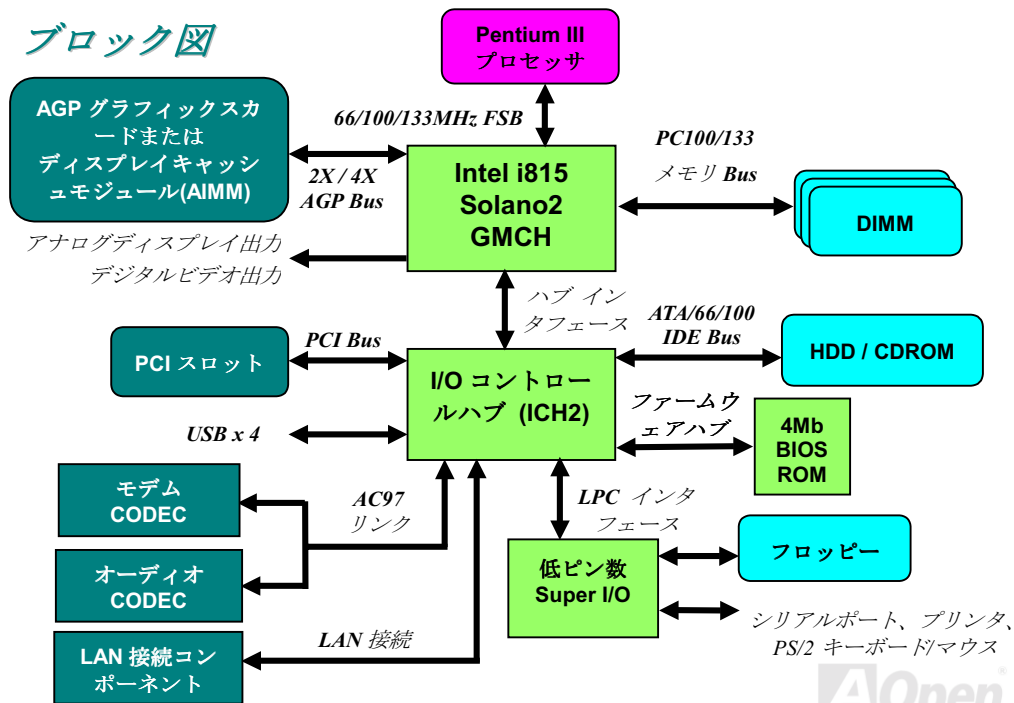
このページにはシステムをインストールする簡単な手順が説明されています。以下のステップに従います。

- 1 [CPU およびファンのインストール](#)
- 2 [システムメモリのインストール](#)
- 3 [前部パネルケーブルの接続](#)
- 4 [IDE およびフロッピーケーブルの接続](#)
- 5 [ATX 電源ケーブルの接続](#)
- 6 [後部パネルケーブルの接続](#)
- 7 [電源の投入および BIOS セットアップデフォルト値のロード](#)
- 8 [CPU クロックの設定](#)
- 9 再起動
- 10 [オペレーションシステム \(Windows 98 等\)のインストール](#)
- 11 [ドライバおよびユーティリティのインストール](#)

マザーボード全体図




ブロック図



ハードウェア

この章ではマザーボードのジャンパー、コネクタ、ハードウェアデバイスについて説明されています。



注意: 静電放電 (ESD) が起きると、プロセッサ、ディスクドライブ、拡張ボード、その他のデバイスに損傷を与える場合があります。各デバイスのインストール作業を行う前には常に、以下に記した注意事項を気を付けるようにして下さい。

1. 各コンポーネントは、そのインストール直前まで静電保護用のパッケージから取り出さないで下さい。
2. コンポーネントを扱う際には、あらかじめアース用のリスト・ストラップを手首にはめて、コードの先はシステム・ユニットの金属部分に固定して下さい。リスト・ストラップがない場合は、静電放電を防ぐ必要のある作業中は常に、身体がシステム・ユニットに接触しているようにして下さい。

JP14 による CMOS クリア

CMOS をクリアすると、システムをデフォルト設定値に戻せます。以下の方法で CMOS をクリアします。

1. システムをオフにし、AC コードを抜きます。
2. コネクタ PWR2 から ATX 電源ケーブルを外します。
3. JP14 の位置を確認し、2-3 番ピンを数秒間ショートさせます。
4. JP14 を通常動作時の 1-2 ピン接続に戻します。
5. ATX 電源ケーブルをコネクタ PWR2 に差します。



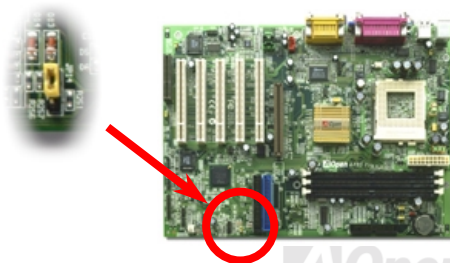
通常動作時
(デフォルト)



CMOS クリア時

ヒント: CMOS クリアはどんな時に必要?

1. オーバークロック時の起動失敗...
2. パスワードを忘れた...
3. トラブルシューティング...



AOpen®

JP28 によるキーボード/マウスウェイクアップ

このジャンパーはキーボード/マウスウェイクアップ機能をオン・オフします。オンにすると、ウェイクアップモードを BIOS Setup > Integrated Peripherals > [Power On Function](#) で設定できます。この機能を使用するには電源装置の 5V スタンバイ電流が 800mA 以上である必要があります。ウェイクオンマウス機能をサポートするのは PS/2 マウスのみである点にご注意ください。



1
2
3

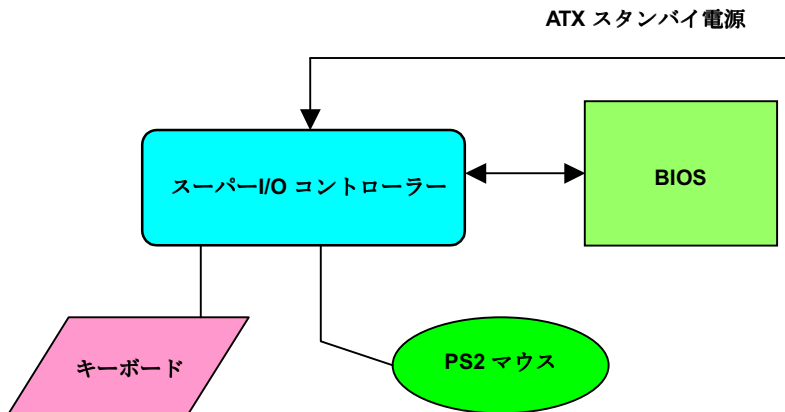
オフ



1
2
3

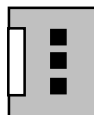
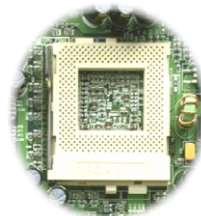
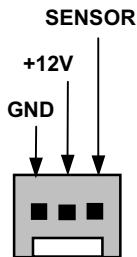
オン

ヒント: ウェイクオンキーボード/マウスはオペレーションシステム(Windows やDOS)が完全に立ち上がった後で有効になります。これはウェイクアップ機能に必要な情報が次の起動のためにスーパー-I/O コントローラーに保存される必要があることによります。



CPU スロットおよびファンのコネクタ

CPU を Socket370 コネクタに差しします。CPU の向きに注意してください。ファンのケーブルは3-ピンの CPUFAN または FAN 1 コネクタに差しします。

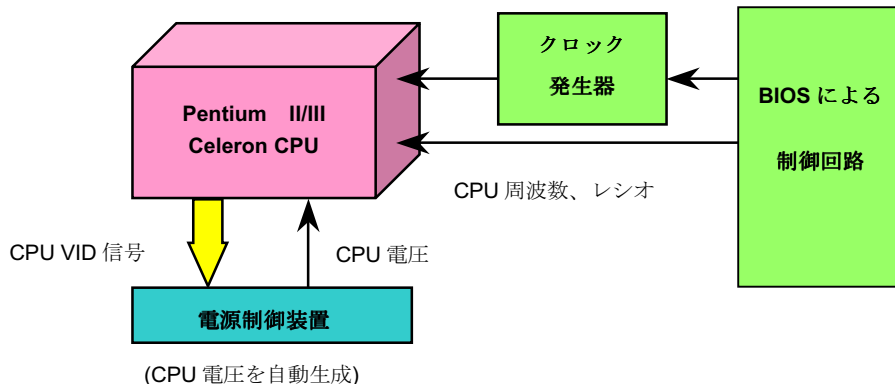


GND
+12V
SENSOR

メモ: CPU ファンによってはセンサ用ピンがないものもあります。この場合、ファンのモニタ機能は使用できません。

CPU ジャンパーレスデザイン


CPU VID 信号および [SMBus](#) クロック発生器により CPU 電圧の自動検出が行われ、CPU クロックは [BIOS セットアップ](#) から設定可能になり、ジャンパースイッチ類は不要となります。正しい CPU 情報は [EEPROM](#) に保存されます。これらのテクノロジーで Pentium ベースのジャンパーレスデザインの不便な点は解消されました。これで CPU 電圧検出エラーの心配や、CMOS バッテリー切れによる筐体を開ける作業は不要になりました。



フルレンジ可変 CPU コア電圧

この機能はオーバークロックを利用されるユーザーのため準備されています。Winbond W83627HF -AW 高性能チップにより、このマザーボードは 1.3V から 3.5V まで、0.05 または 0.1V 刻みで CPU コア電圧を調節できます。ただし、マザーボードには CPU VID 信号を自動検出して適切な CPU コア電圧を供給する機能もあります。

BIOS Setup > Frequency / Voltage Control > [CPU Voltage Setting](#)



警告: オーバークロックにより高い CPU コア電圧での CPU 速度は改善されるかもしれませんが、CPU を傷めたり CPU 寿命を縮める可能性があります。

CPU クロックの設定

このマザーボードは CPU ジャンパーレス設計なので、CPU 周波数はジャンパースイッチ類ではなく、BIOS セットアップから調整可能です。

BIOS Setup > Frequency / Voltage Control > CPU Speed Setup

CPU レシオ	x2, x2.5, x3, x3.5, x4, x4.5, x5, x5.5, x6, x6.5, x7, x7.5, and x8
CPU <u>FSB</u>	66.6, 66.8, 68.3, 75.3, 78, 80, 95, 100, 100.2, 105, 110, 114, 117, 122, 127, 129, 133.3, 133.6, 138, 140, 144, 146.6, 150, 157.3, 160 and 166 MHz



警告: INTEL i815E チップセットは最大 133MHz FSB および 66MHz AGP クロックをサポートしています。更に高いクロック設定はシステムに重大な損傷を与える可能性があります。

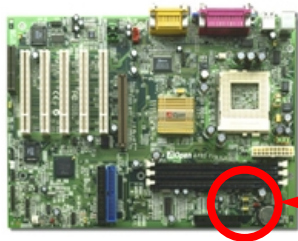


ヒント: オーバークロックの結果として、システムが反応しなくなったり起動不能になった場合は、JP14 で CMOS クリアすることでデフォルト設定に復帰します。

コアクロック = CPU FSB クロック * CPU レシオ

CPUの種類	CPUコアクロック	FSBクロック	レシオ
CELERON 300A	300 MHz=	66 MHz	4.5x
CELERON 366	366 MHz=	66 MHz	5.5x
CELERON 433	433 MHz=	66 MHz	6.5x
CELERON 466	466 MHz=	66 MHz	7x
CELERON 500	500 MHz=	66 MHz	7.5x
CELERON 533	533 MHz=	66 MHz	8x
Pentium II 350	350 MHz=	100 MHz	3.5x
Pentium II 400	400 MHz =	100 MHz	4x
Pentium III 450	450 MHz=	100 MHz	4.5x
Pentium III 500	500 MHz =	100 MHz	5x
Pentium III 533EB	533 MHz =	133 MHz	4x
Pentium III 550E	550 MHz =	100 MHz	5.5x
Pentium III 600E	600 MHz =	100 MHz	6x
Pentium III 600EB	600 MHz =	133 MHz	4.5x
Pentium III 650E	650 MHz =	100 MHz	6.5x
Pentium III 667EB	667 MHz =	133 MHz	5x
Pentium III 700E	700 MHz =	100 MHz	7x
Pentium III 733EB	733 MHz =	133 MHz	5.5x
Pentium III 866EB	866 MHz =	133 MHz	6.5x

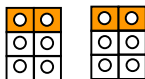
JP23/JP29 による FSB/PCI クロックレシオ設定



このジャンパーはPCIとFSBクロックの関係を設定するために使用します。通常はオーバークロックするのでない限りデフォルト設定のままでよいでしょう。

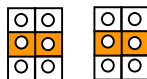


JP23 JP29



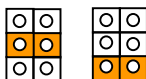
自動設定
(デフォルト)

JP23 JP29



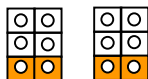
4X
(122~166 MHz)

JP23 JP29



3X
(95~133.6 MHz)

JP23 JP29

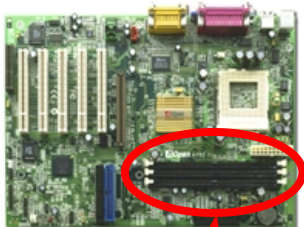


2X
(66.8~80 MHz)

AOpen

DIMM ソケット

このマザーボードには 168 ピン [DIMM ソケット](#) が 3 個あり、最大 512 MB の [PC133](#) を搭載できます。サポートされるのは SDRAM のみです。



ピン 1

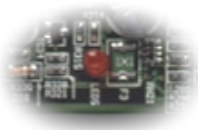
DIMM1
DIMM2
DIMM3



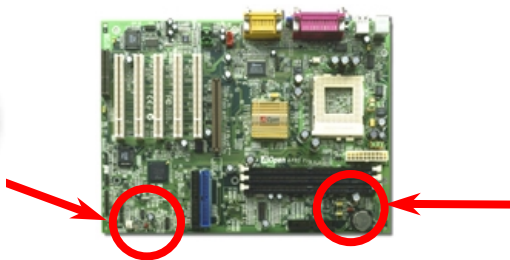
ヒント: 新世代のチップセットの動作性能はメモリバッファ (性能改善に使用) の不足により頭打ちになることがあります。それで DIMM インストール時には DRAM チップが重要な役割を果たします。残念ながら BIOS には正確なチップ数を検出する手段はないので、チップ数は目視で確認する必要があります。簡単な原則は次の通りです。目視するには、DIMM を 16 チップ以内にとるとよいでしょう。

RAM 電源 LED および点滅 LED

RAM 電源はメモリに電源が供給されていることを表示します。これはRAM サスペンド中にRAM への電力供給をチェックする際に役立ちます。このLED が点灯中にメモリを抜かないでください。
点滅 LEDはシステム起動が問題ないかどうか表示します。システムが POST 動作中は点滅し、システムが正常起動すると点灯しつづけます。



点滅 LED



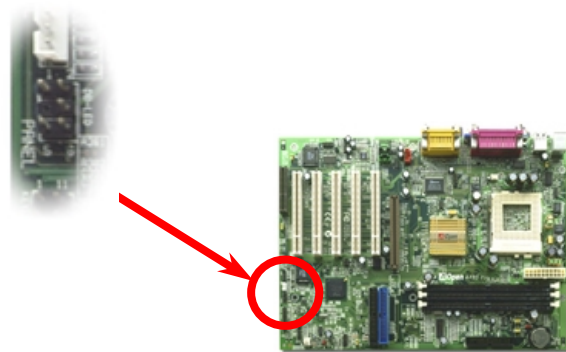
RAM 電源 LED



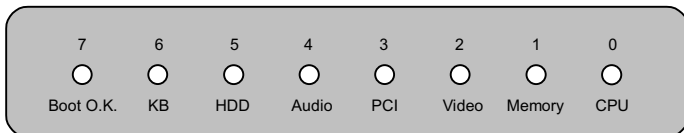
PC-Doctor — Dr. LED (オプション)

PC Doctor (オプション)に付属しています。Dr. LED により、組立時にシステムで生じた問題の性質を容易に把握できます。PC-Doctor のフロントパネルの LED 8 個により、問題がコンポーネントにあるのかインストールにあるのか、明確に表示されます。これでユーザーによるシステム状態チェックが短縮できます。

	1	2	
3.3 V			GP024
NC			GP027
GND			GP028
	5	6	



PC-Doctor はフロントパネルに LED 8 個がつく CD ディスク収納ボックスで、サイズは 5.25 フロッピードライブとまったく同じなので、任意の筐体の標準の 5.25 ドライブベイに収まります。



システムが 8 つの段階のいずれかで停止すると、8 個のうちの対応する LED が点灯します。第 7(最後の)LED が点灯したなら、システムは起動プロセスを正常に完了したことを示します。

8個のLEDのいずれかが点灯したかで以下のメッセージを表します。

LED 0 – CPUが故障しているか、正しくインストールされていません。

LED 1 – メモリが故障しているか、正しくインストールされていません。

LED 2 – AGPが故障しているか、正しくインストールされていません。

LED 3 – PCIカードが故障しているか、正しくインストールされていません。

LED 4 – フロッピーディスクドライブが故障しているか、正しくインストールされていません。

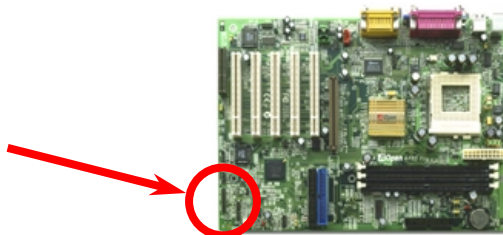
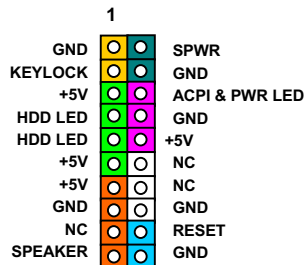
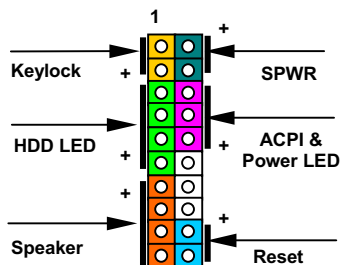
LED 5 – HDDが故障しているか、正しくインストールされていません。

LED 6 – キーボードが故障しているか、正しくインストールされていません。

LED 7 – システムは正常です。

メモ: システムの POST (起動時のセルフチェック) 画面時に LED0 から LED7 がシステムが正常に起動されるまで順繰りに点灯します。

フロントパネルコネクタ



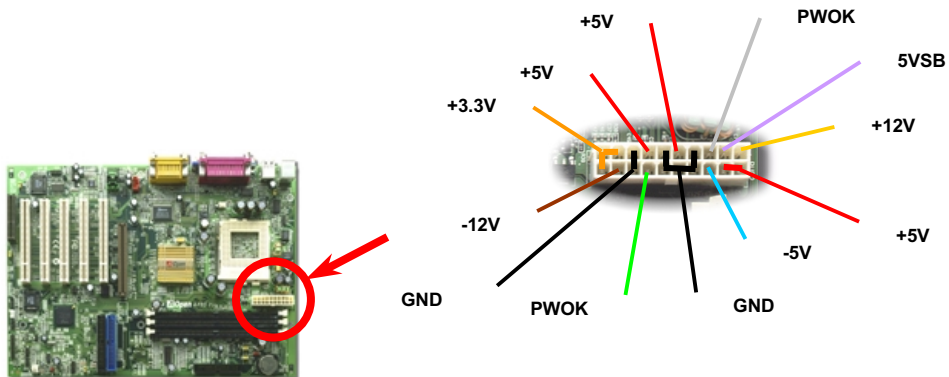
電源 LED、キーロック、スピーカー、リセットスイッチのコネクタをそれぞれ対応するピンに差します。BIOS セットアップで **Power Management Setup** (パワーマネジメント) > [ACPI Function](#) (機能) を有効にした場合、ACPI および電源 LED はサスペンドモード中、点滅し続けます。

サスペンドのタイプ	ACPI LED
電源オン時のサスペンド (S1)	0.5 秒点滅
RAM サスペンド (S3)	1 秒毎に点滅

ATX ケースからの電源スイッチケーブルを確認します。これはケースの前面パネルから出ている 2 ピンメスコネクタです。このコネクタを **SPWR** の記号の付いたソフトパワースイッチコネクタに差します。

ATX 電源 Connector

ATX 供給電源には下図のように 20 ピンのコネクタが使用されています。差し込む際は向きにご注意ください。

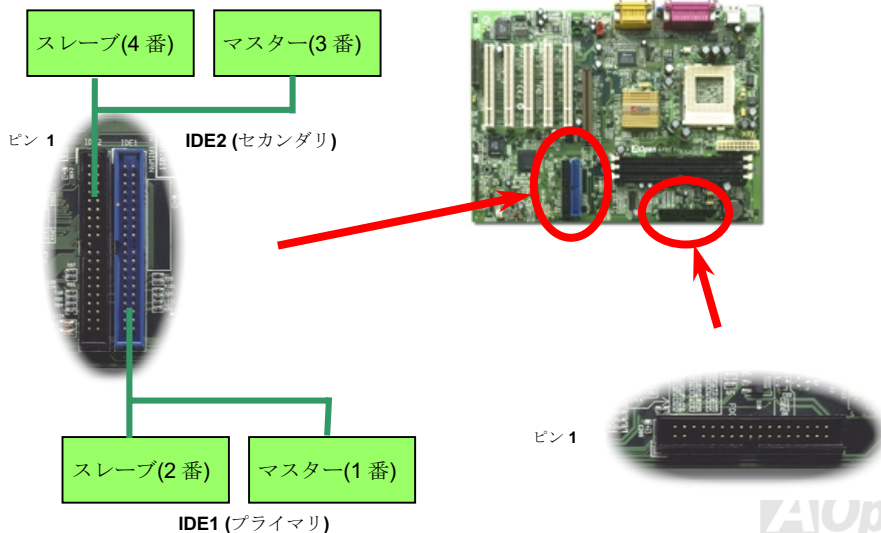


AC 電源自動リカバリー

従来の ATX システムでは AC 電源が切断された場合、電源オフ状態からの再開となります。この設計では、無停電電源を使用しないネットワークサーバーやワークステーションにとって常に電源オン状態を維持することが要求され、不都合です。この問題を解決するため、当マザーボードには AC 電源自動リカバリー機能が装備されています。 **BIOS セットアップ > Integrated Peripherals > AC PWR Auto Recovery** を“Enabled (オン)”にセットすることで、システムは AC 電源復帰後、自動的に電源オンの状態に戻ります。

IDE およびフロッピーのコネクタ

34-ピンフロッピーケーブルおよび 80-ピン IDE ケーブルをフロッピーコネクタ FDC および IDE コネクタ **IDE1**, **IDE2** に接続します。ケーブルのピン 1 側は通常赤です。ピン 1 の方向にご注意ください。方向を間違えると、システムの故障の原因となります。




IDE1はプライマリチャンネル、IDE2はセカンダリチャンネルとも呼ばれます。各チャンネルは2個のIDEデバイスが接続できるので、合計4個のデバイスが使用可能です。これらを協調させるには、各チャンネル上の2個のデバイスを**マスター**および**スレーブ**モードに指定する必要があります。ハードディスクまたはCDROMのいずれでも接続可能です。モードがマスターかスレーブかはIDEデバイスのジャンパー設定に依存しますから、接続するハードディスクまたはCDROMのマニュアルをご覧ください。

警告: IDE ケーブルの規格は最大46cm (18 インチ)です。ご使用のケーブルの長さがこれを超えないようご注意ください。

ヒント: 信号の品質確保のため、一番離れた側の端子をマスターとし、提案された順序にしたがって新たにデバイスをインストールしてください。上図をご参考ください。

このマザーボードは [ATA/100 IDE](#) をサポートしています。下表には IDE PIO 転送速度および DMA モードが列記されています。IDE バスは 16 ビットで、各転送が 2 バイト単位で行われることを意味します。

モード	クロック周期	クロック カウント	サイクル時間	データ転送速度
PIO mode 0	30ns	20	600ns	(1/600ns) x 2バイト = 3.3MB/s
PIO mode 1	30ns	13	383ns	(1/383ns) x 2バイト = 5.2MB/s
PIO mode 2	30ns	8	240ns	(1/240ns) x 2バイト = 8.3MB/s
PIO mode 3	30ns	6	180ns	(1/180ns) x 2バイト = 11.1MB/s
PIO mode 4	30ns	4	120ns	(1/120ns) x 2バイト = 16.6MB/s
DMA mode 0	30ns	16	480ns	(1/480ns) x 2バイト = 4.16MB/s
DMA mode 1	30ns	5	150ns	(1/150ns) x 2バイト = 13.3MB/s
DMA mode 2	30ns	4	120ns	(1/120ns) x 2バイト = 16.6MB/s
UDMA/33	30ns	4	120ns	(1/120ns) x 2バイト x2 = 33MB/s
UDMA/66	30ns	2	60ns	(1/60ns) x 2バイト x2 = 66MB/s
UDMA/100	20ns	2	40ns	(1/40ns) x 2バイト x2 = 100MB/s

 ヒント: Ultra DMA/100 ハードディスクの最適な動作のためには、専用 80 芯 IDE ケーブルが必要です。

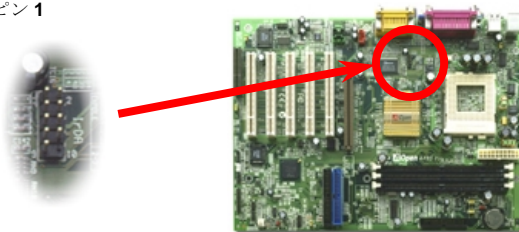
IrDA コネクタ

IrDA コネクタはワイヤレス赤外線モジュールおよびLaplink やWindows95 のケーブル接続等のアプリケーションソフトウェアを設定後、ユーザーのラップトップ、ノートブック、PDA デバイス、プリンタ間でのデータ通信をサポートします。このコネクタは SIR (115.2Kbps, 2m 以内)および ASK-IR (57.6Kbps)をサポートします。

IrDA コネクタに赤外線モジュールを接続し、BIOS Setup > Integrated Peripherals > UART Mode Select から赤外線通信機能をオンにします。IrDA コネクタを差す際は方向にご注意ください。







	1	2	
+5V			NC
NC			CIRRX
IRRX			5VSB
GND			NC
IRTX			NC
	9	10	

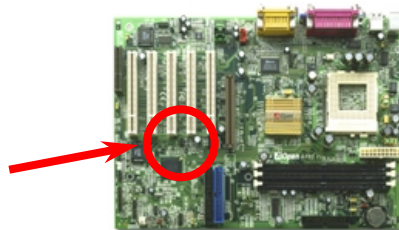
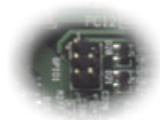
ピン 1



GPIO - コネクタ (汎用 I/O) (オプション)

GPIO (汎用入出力)は AOpen がパワーユーザーのため用意した一歩進んだ仕様で、ユーザーは機能を自分で設定できます。例えば、アラーム、ブザー、タイマー等の機能を提供するドータボードを設計できます。

	1	2	
3.3 V			NC
GP019			NC
GP020			GND
	5	6	







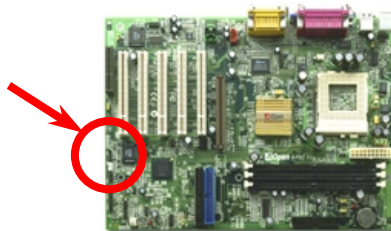
WOM (ゼロボルトウェイクオンモデム)

このマザーボードには内蔵モデムカードおよび外付けモデムの双方をサポートするウェイクオンモデム機能が備わっています。内蔵モデムカードはシステム電源オフの際、電力消費はゼロなので内蔵モデムの使用をお勧めします。内蔵モデムを使用するには、モデムカードの **RING** コネクタからの 4 ピンケーブルをマザーボードの **WOM** コネクタに接続します。

ピン 1

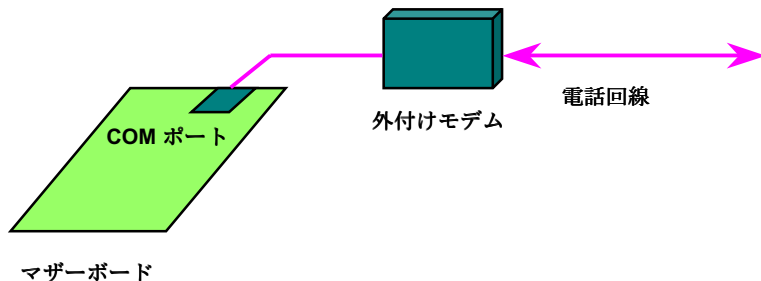
1

	+5V Standby
	NC
	RING
	GND



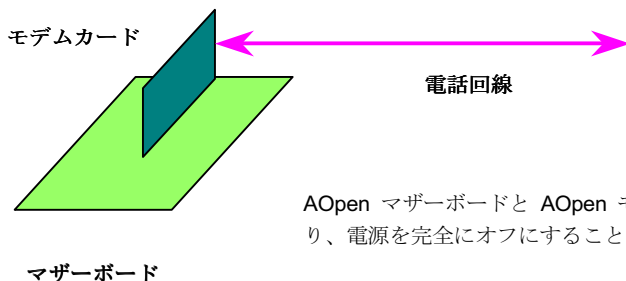
外付けモデムによる WOM

従来のグリーン PC のサスペンドモードはシステム電源供給を完全にはオフにはせず、外付けモデムでマザーボードの COM ポートを活性化し、アクティブに復帰します。



内蔵モデムカードによる WOM

ATX のソフトパワーオン・オフ機能により、システムを完全にオフにしても着信時に自動的にウェイクアップして、留守録またはファックスの送受信を行うことが可能です。システム電源が完全にオフであるかどうかは供給電源ファンがオフかどうかで判断されます。外付けモデムと内蔵モデムカードの双方がモデムウェイクアップをサポートできますが、外付けモデムを使用する際は、モデム電源をオンにしておく必要があります。



AOpen マザーボードと AOpen モデムカードの併用により、電源を完全にオフにすることが可能です。

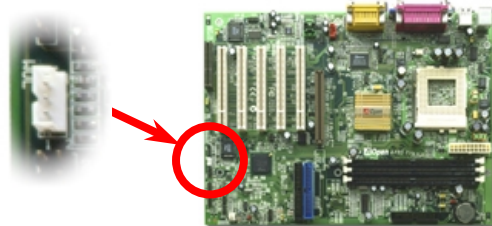
WOL (LAN ウェイクアップ)

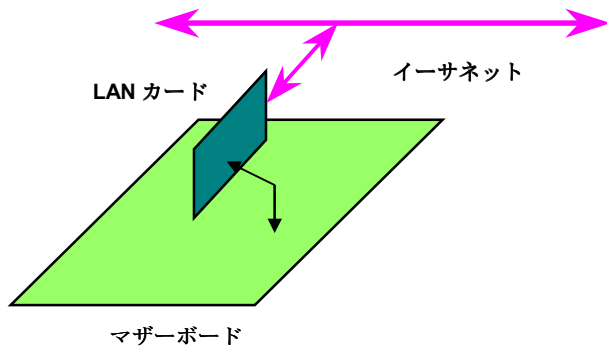
この機能は[モデムウェイクアップ](#)と酷似していますが、これはローカルエリアネットワークを対象としています。[LAN ウェイクアップ機能](#)を使用するには、この機能をサポートするネットワークカードが必要で、LAN カードからのケーブルをマザーボードの WOL コネクタに接続します。システム判別情報(おそらく IP アドレス)はネットワークカードに保存され、イーサネットには多くのトラフィックが存在するため、システムをウェイクアップさせる方法は ADM 等のネットワークソフトウェアを使用することが必要でしょう。この機能を使用するには、LAN カードへの ATX からのスタンバイ電流が最低 600mA 必要であることにご注意ください。

ピン 1



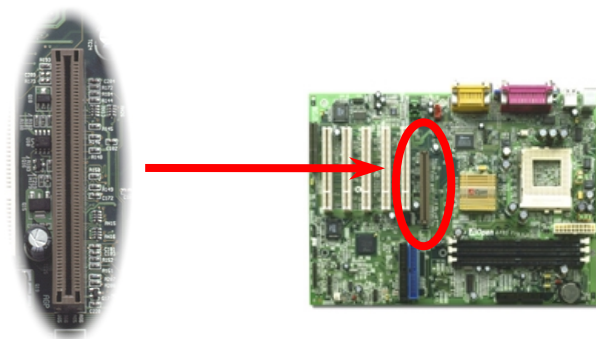
+5V Standby
GND
LID





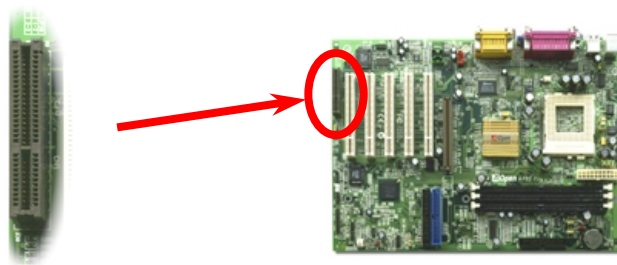
4X AGP (アクセラレーテッドグラフィックポート)

このマザーボードは **4X AGP** をサポートしています。AGP は高性能 3D グラフィクス用に設計されたバスインタフェースで、メモリへの読み書きのみをサポートします。1 枚のマザーボードには AGP スロットが 1 つだけ装備可能です。**2X AGP** は 66MHz クロックの立ち上がりと下降部の双方を利用し、データ転送速度は $66\text{MHz} \times 4 \text{ バイト} \times 2 = 528\text{MB/s}$ です。**4X AGP** も 66MHz AGP クロックを使用しますが、1 つの 66MHz クロックサイクルの間に 4 回データ転送を行うので、データ転送速度は $66\text{MHz} \times 4 \text{ バイト} \times 4 = 1056\text{MB/s}$ となります。

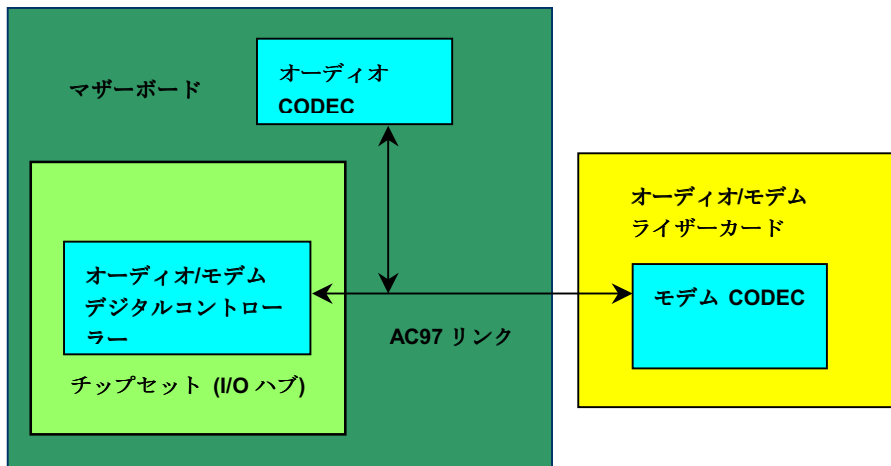


CNR (コミュニケーションネットワークライザー)

CNRはAMR(オーディオ/モデムライザー)に取って代わるライザーカード仕様で、V.90アナログモデム、マルチチャンネルオーディオ、電話線を介したネットワーク、10/100イーサネットによるネットワークをサポートします。CPUの計算能力がより強力になっているので、デジタル処理作業をメインチップセットにも分担させてCPUパワーの一部が使用できます。アナログ変換(CODEC)回路は別個の異なる回路設計で、CNRカード上に置かれています。このマザーボードはオンボードのサウンドCODECを採用(JP12でオフにすることも可能)していますが、予備のCNRスロットはオプションのモデム機能用です。従来のPCIモデムカードも使用できます。

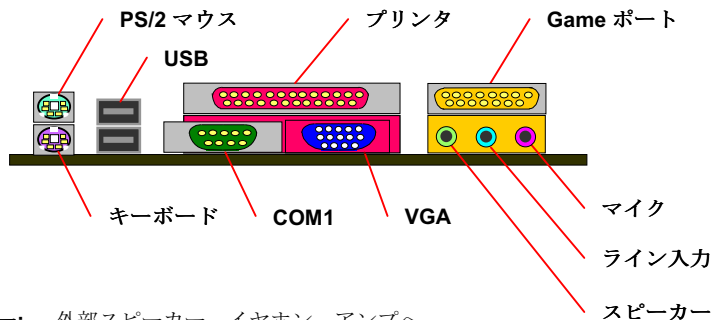


このマザーボードにはオンボードサウンドとしてAC97コーデックを採用しています。つまり、オーディオ CODEC はマザーボードにあり、モデム機能は AMR カードでサポートされています。



PC99 カラーコード準拠後部パネル

オンボードの I/O デバイスは PS/2 キーボード、PS/2 マウス、シリアルポートの COM1 と VGA、プリンタ、[4つのUSB](#)、AC97 サウンドコーデック、Game ポートです。下図は筐体の後部パネルから見た状態です。



スピーカー: 外部スピーカー、イヤホン、アンプへ

ライン入力: CD/テーププレーヤー等の信号源から

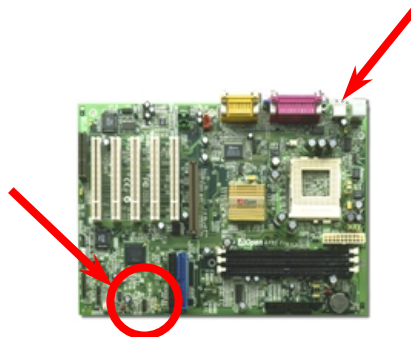
マイク: マイクロホンから

USB ポート 4 基をサポート

このマザーボードは 4 つの USB ポートをサポートしています。そのうちの 2 つは後部パネルに、残り 2 つはマザーボードの左下に位置しています。適当なケーブルによりここから前部パネルに接続できます。

ピン 1

	1	2	
+5V	●	●	+5V
D2-	●	●	D3-
D2+	●	●	D3+
GND	●	●	GND
NC	●	□	NC
	9	10	



JP12 によるオンボードサウンドのオン・オフ

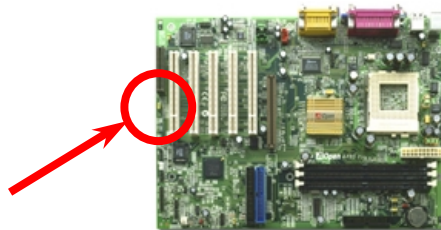
このマザーボードには [AC97](#) サウンドコーデックが搭載されています。JP12 はオンボードの AD1885 [CODEC](#) チップをオン・オフするのに使用します。オフにすることでユーザー指定の PCI サウンドカードまたは CNR カードが使用できます。



オン



オフ

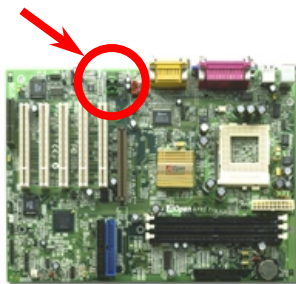


CD オーディオコネクタ

この黒いコネクタは CDRom または DVD ドライブからの CD オーディオケーブルをオンボードサウンドに接続するのに使用します。



ピン 1



CD-IN



4 3 2 1

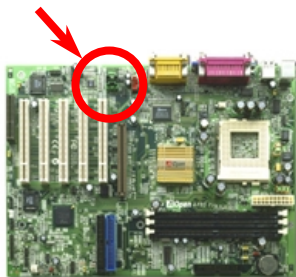
R ア L
ク ス

ビデオ・オーディオ入力コネクタ

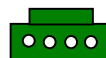
この緑のコネクタは MPEG カードからの MPEG オーディオケーブルをオンボードサウンドに接続するのに使用します。



ピン 1



ビデオオーディオ入力



4 3 2 1

R ア ア L
ー ー
ス ス

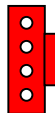
モデムオーディオコネクタ

このコネクタは内蔵モデムカードからのモノラル入力/マイク出力ケーブルをオンボードサウンド回路に接続するのに用います。1-2 ピンは**モノラル入力**， 3-4 ピンは**マイク出力**です。参考までに、この種のコネクタにはまだ規格はないものの、内蔵モデムカードによってはこのコネクタを採用しています。

ピン1



MODEM-CN



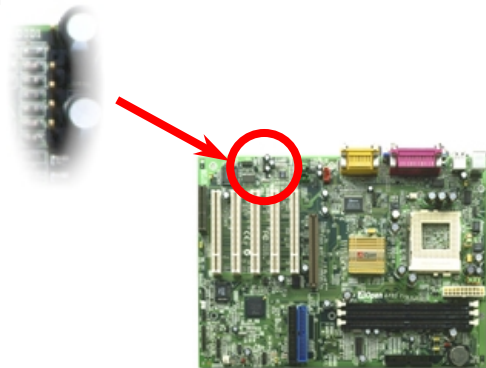
- | | |
|---|----------------|
| 4 | マイク出力 (モデムへ) |
| 3 | アース |
| 2 | アース |
| 1 | モノラル入力 (モデムから) |



フロントパネルオーディオ (オプション)

筐体のフロントパネルにオーディオポートが設定されている場合、オンボードオーディオからこのコネクタを通してフロントパネルに接続できます。

ピン 1



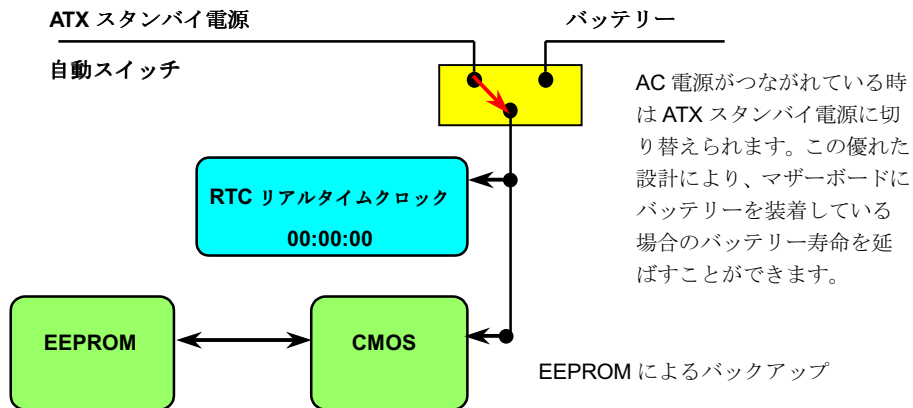
●	1 GND
□	2 NC
●	3 Phone_R
●	4 Phone_L
●	5 NC
●	6 FP_Mic

バッテリーレスおよび耐久設計

このマザーボードには **EEPROM** と特殊回路が搭載され、これにより現在の **CPU** と **CMOS** セットアップ設定をバッテリー無しで保存できます。**RTC** (リアルタイムクロック) は電源コードがつながれている間動作し続けます。何らかの理由で **CMOS** データが破壊された場合、**EEPROM** から **CMOS** 設定を再度読み込むだけでシステムは元の状態に復帰します。

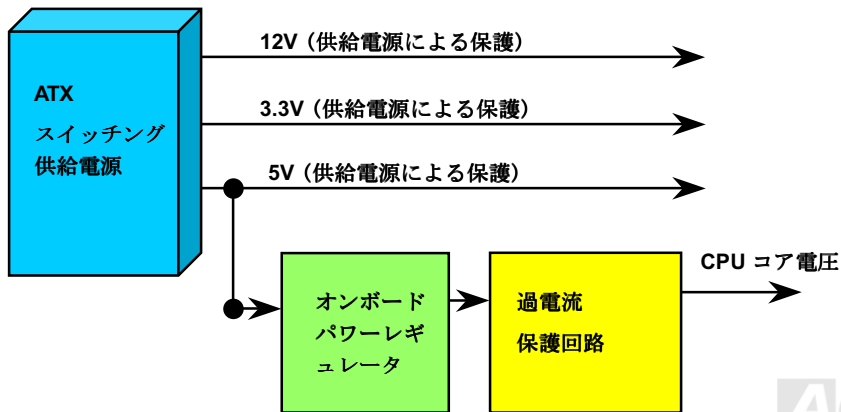


ヒント: ユーザーの便宜を図りこのマザーボードにはリチウム電池(**CR-2032**)1 個が電池ソケットに装着されています。電池を使用するのをお望みであれば、ソケットに電池を入れたままにしておきます。これで **RTC** は電源コードを抜いても動作しつづけます。



過電流保護

過電流保護機能は ATX 3.3V/5V/12V のスイッチング供給電源に採用されている一般的な機能です。しかしながら、新世代の CPU は 5V から CPU 電圧 (例えば 2.0V) を独自に生成するため、5V 過電流保護は意味を持たなくなります。このマザーボードにはオンボードで CPU 過電流保護をサポートするスイッチングレギュレータを採用、3.3V/5V/12V 供給電源との併用で、フルレンジの過電流保護を有効にしています。

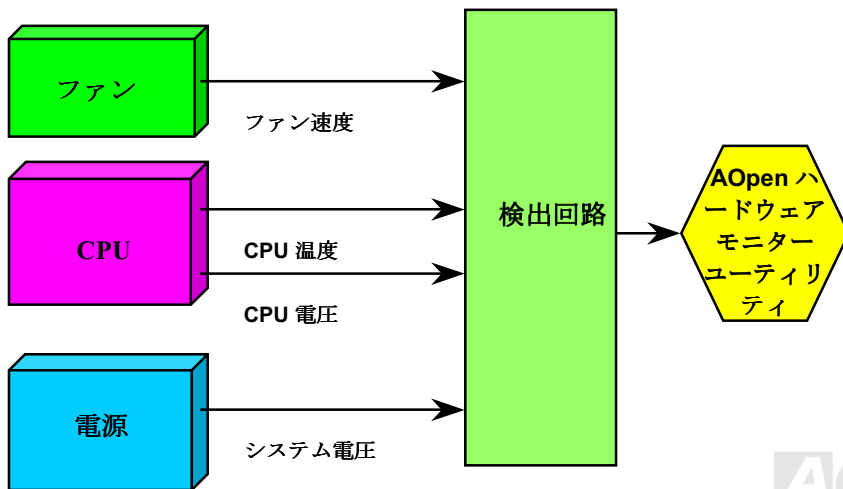




注意: 保護回路の採用により人為的な操作ミスを防ぐようになっていますが、このマザーボードにインストールされているCPU、メモリ、HDD、アドオンカード等がコンポーネントの故障、人為的ミス、原因不明の要素により損傷を受ける場合があります。**AOpen** は保護回路が常に正しく動作することの保証はいたしかねます。

ハードウェアモニター機能

このマザーボードにはハードウェアモニター機能が備わっています。システムを起動させた時から、この巧みな設計により、システム動作電圧、ファンの状態、CPU 温度をモニターします。システムの状態のいずれかが問題のある場合、AOpen [ハードウェアモニターユーティリティ](#) を通して警告メッセージがユーザーに知らされます。



リセットブルヒューズ

従来のマザーボードではキーボードやUSBポートの過電流または短絡防止にヒューズが使用されていました。これらヒューズはボードにハンダ付けされているので、故障した際、(マザーボードを保護する措置を取っても)ユーザーはこれを交換はできず、マザーボードは故障したままにされました。

高級なりセットブルヒューズでは、ヒューズの保護機能が働いてもマザーボードは正常動作に復帰するよう設定できるものもあります。



ジャンパースイッチ JP28 両側の緑色部分.

JP30 によるダイハードBIOS 設定 (100% ウィルス防止) (オプション)

最近では BIOS コードおよびデータ領域を破壊するコンピューターウイルスが多く発見されています。このマザーボードには、ソフトウェアや BIOS コードによらないハードウェアによるウイルス防止装置がありますから、ウィルスプロテクト効果は 100%です。



通常のフラッシュ
ROM から読
み込み

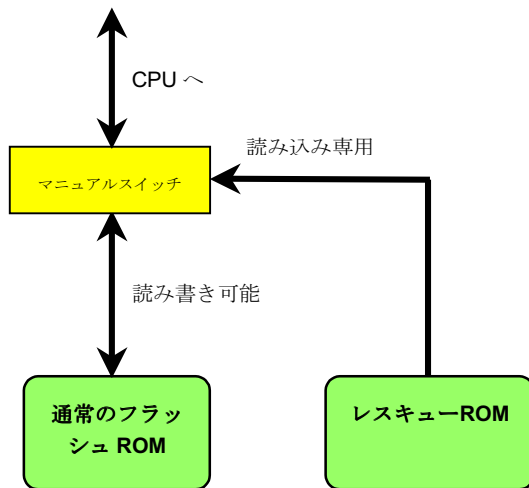


レスキューROM
から読み込み



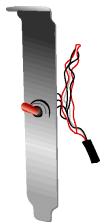
ダイハードBIOS用外部コントローラー (オプション)

外部コントローラーにより、コンピューターの筐体を開けずに BIOS モードを“レスキュー”と“ノーマル”間で切り替えることができます。これにはマザーボードのコネクタピンにジャンパーケーブルを差す必要があります。コネクタの向きにご注意ください。赤い線がピン1側です。

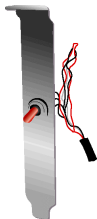


メモ: BIOS がウイルスに感染したと思われる場合、以下の操作を行います。

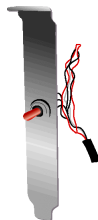
1. システムをオフにし、外部コントローラーを“レスキュー”にしてレスキューROM から読み込みます。
2. システムを起動し、スイッチを“ノーマル”に戻します。
3. BIOS アップグレードの手順にしたがってBIOS を復旧させます。
4. システムを再起動すると、正常に戻ります。



ノーマル
(通常のフラッシュ
ROM から読み込み)



レスキュー
(レスキューROM
から読み込み)

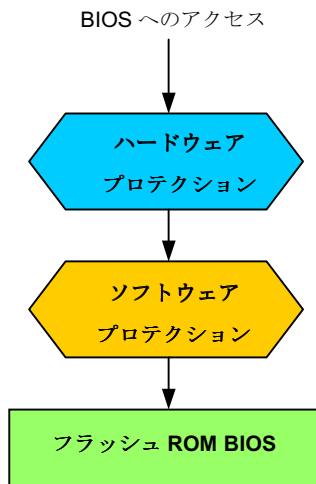


ロック
(パソコンをロックし
て、システムのデー
タを保護します)

ヒント: スイッチを中立にすると、システム起動は不能になりますから、ウイルス攻撃からデータを保護できます。

BIOS ライトプロテクション

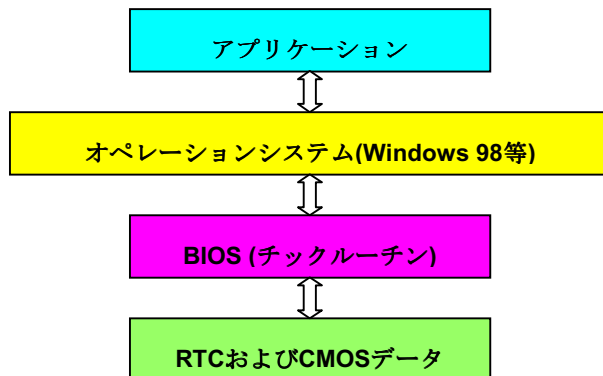
最近のコンピューターウィルスの多くは BIOS コードおよびデータ領域を破壊することが分かっています。このマザーボードには権限を持たない BIOS への書き込みの 2 重の防止対策が備わっています。ひとつはハードウェアによるもの、もうひとつは[ソフトウェア](#)による方法です。



西暦2000問題 (Y2K)

Y2K は基本的には年号コード識別に関する問題です。記憶場所節約のため、以前のソフトウェアでは年代識別に 2 桁のみ使用していました。例えば、98 は 1998、99 は 1999 を意味しますが、00 では 1900 か 2000 かはつきりしません。

マザーボードのチップセットには RTC 回路 (リアルタイムクロック) が 128 バイトの CMOS RAM データを使用しています。RTC は 2 桁を受け持ち、CMOS が残り 2 桁を提供します。残念ながらこの回路の動作は 1997 → 1998 → 1999 → 1900 であり、これが Y2K 問題を起こす可能性があります。以下のブロック図がアプリケーションと OS, BIOS, RTC との関係を示しています。PC 業界での互換性を図るため、アプリケーションは OS を呼出し、OS が BIOS を呼び出し、BIOS のみが直接ハードウェア (RTC) を呼び出す約束になっています。

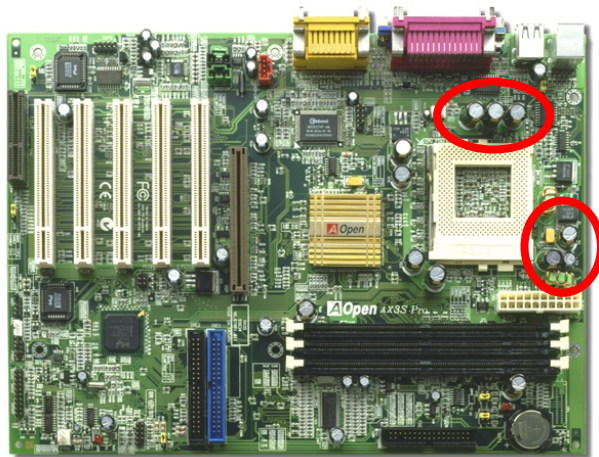


BIOSにはチックルーチン(約50m秒毎に実行)があり、日時情報を更新します。CMOSの動作速度はとても遅くシステム性能を落とすので、一般にはBIOSのチックルーチンは毎回CMOSを更新するわけではありません。AOpen BIOSのチックルーチンは、アプリケーションおよびオペレーションシステムが日時情報の取得ルールに従う限り、年コードに4桁を使用します。それでY2K問題(NSTLテストプログラム等)はありません。しかしながら残念なことにテストプログラム(Checkit 98等)によってはRTC/CMOSに直接アクセスするものがあります。

低漏洩コンデンサ

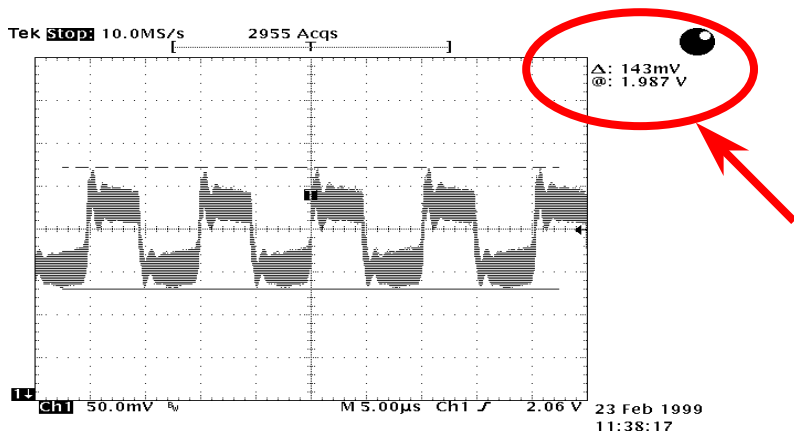
高周波数動作中の低漏洩コンデンサ (低等価直列抵抗付き)の性質はCPU パワーの安定性の鍵を握ります。これらのコンデンサの設置場所は1つのノウハウであり、経験と精密な計算が要求されません。

これに加え、このマザーボードでは通常(1000または1500 μ F)より大容量の**2200 μ Fコンデンサー**を採用、CPU パワーをより安定したものにします。



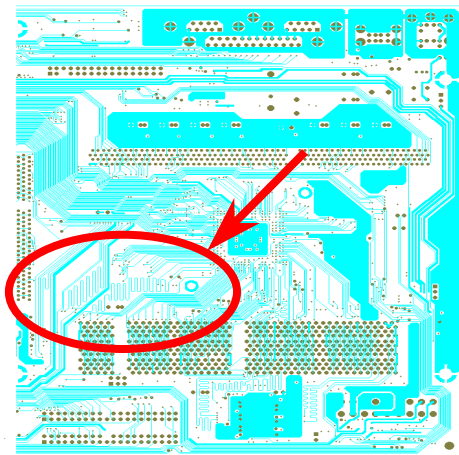
AOpen

CPU コア電圧の電源回路は高速度の CPU (新しい Pentium III, またはオーバークロック等)でのシステム安定性を高めるのに重要な要素です。代表的な CPU コア電圧は 2.0V なので、優良な設計では電圧が 1.860V と 2.140V の間になるよう制御されます。つまり変動幅は 280mV 以内ということです。下図はデジタルストレージスコープで測定された電圧変動です。これは電流が最大値 18A の時でも電圧変動が 143mV であることを示しています。



注意: このグラフは参考用で、当マザーボードに必ずしも適用されるわけではありません。

レイアウト(電磁波シールド)

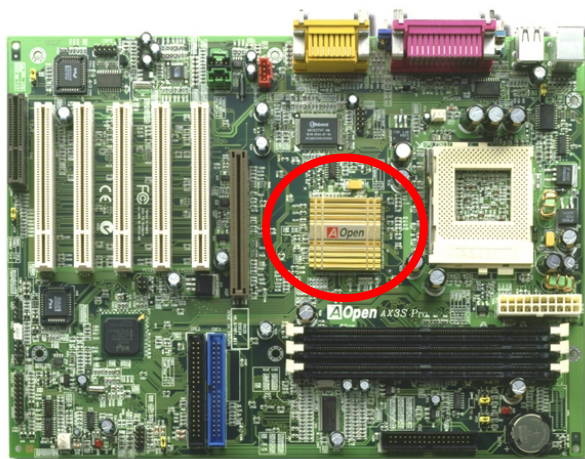


注意: この図は参考用で、当マザーボードと同一であるとは限りません。

高周波時の操作、特にオーバークロックでは、チップセットとCPUが安定動作をするためその配置方法が重要な要素となります。このマザーボードでは“電磁波シールド”と呼ばれるAOpen独自の設計が採用されています。マザーボードの主要な領域を、動作時の各周波数が同じか類似している範囲に区分けすることで、互いの動作やモードのクロストークや干渉が生じにくいようになっています。トレース長および経路は注意深く計算されています。例えばクロックのトレースは同一長となるよう(必ずしも最短ではない)にすることで、クロックスキューは数ピコ秒($1/10^{12}$ Sec)以内に抑えられています。

24K 純金鍍金ヒートシンク

CPU とチップセットの冷却はシステム安定性の重要な要素です。特にオーバークロック時には、純金鍍金ヒートシンクがより良い熱放散性を提供します。

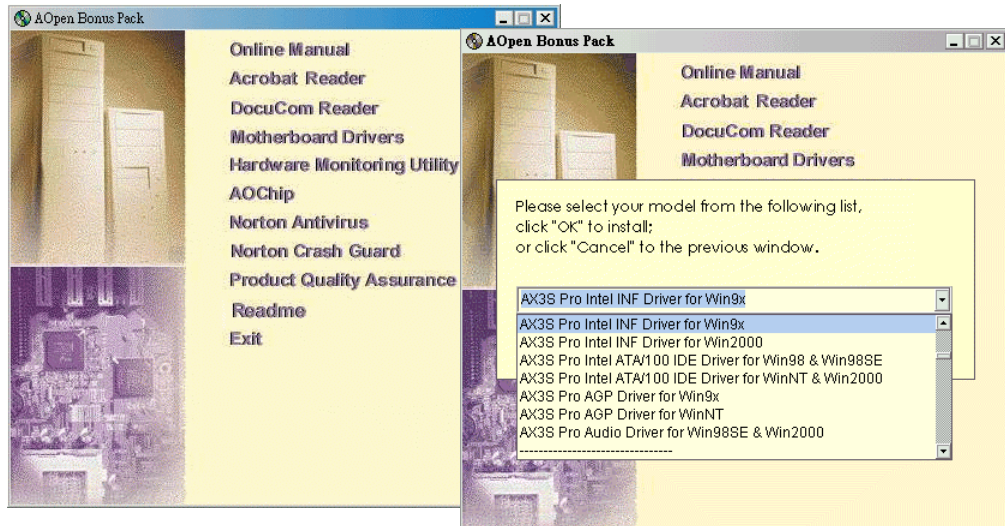


ドライバおよびユーティリティ

[AOpen Bonus CD ディスク](#)にはマザーボードのドライバとユーティリティが収録されています。システム起動にこれら全てをインストールする必要はありません。ただし、ハードウェアのインストール後、ドライバやユーティリティのインストール以前に、まず **Windows 98** 等のオペレーションシステムをインストールする必要があります。ご使用になるオペレーションシステムのインストールガイドをご覧ください。

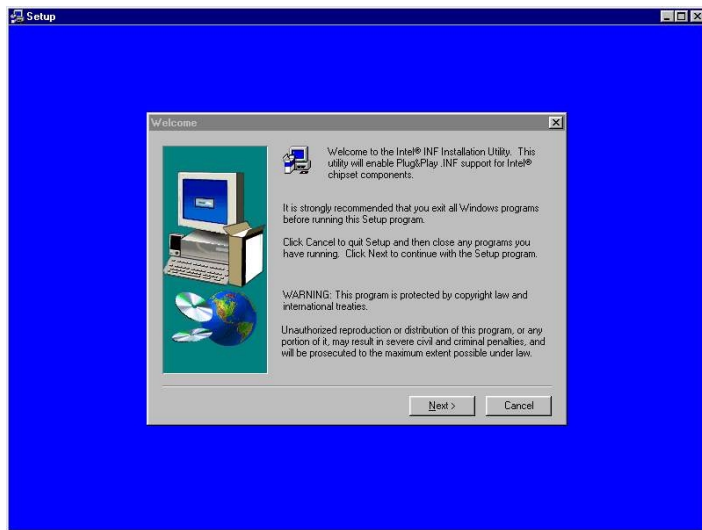
Bonus CD ディスクからのオートランメニュー

ユーザーは Bonus CD ディスクのオートラン機能を利用できます。ユーティリティとドライバを指定し、型式名を選んでください。



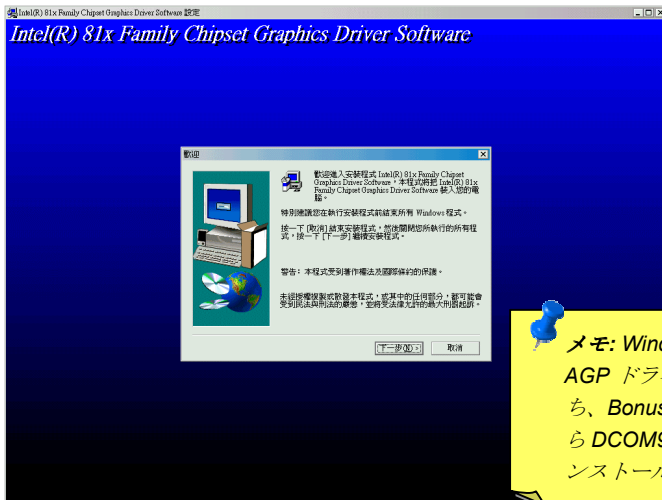
Windows 95/98 での“?”マーク表示を減らすには

Windows 95/98 は Intel i815E チップセットの発表前にリリースされたので、このチップは識別できません。“?”マークの表示を減らすには、**Bonus Pack CD** ディスクのオートランメニューから Intel INF アップデートユーティリティをインストールします。



オンボードAGPドライバのインストール

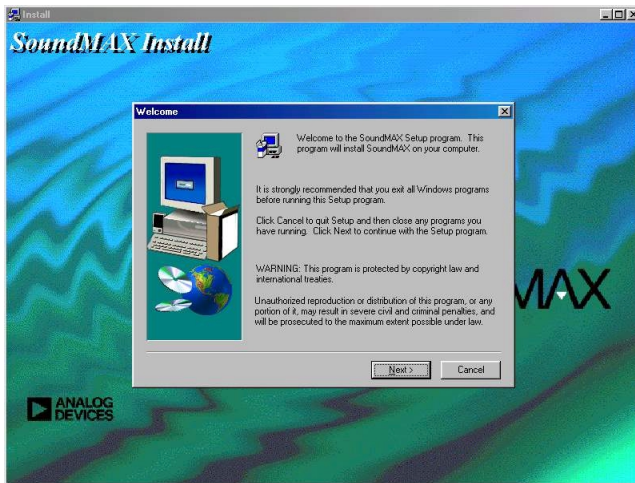
Intel i815E (Solano) には 2D/3D グラフィックアクセラレータが装備され、メインメモリへのアクセス速度が毎秒 1GB を上回る素晴らしい AGP 2X/4X の機能を発揮します。オーディオドライバは Bonus Pack CD ディスクのオートランメニューから見出せます。



メモ: Windows95 をご使用の場合は、AGP ドライバのインストールに先立ち、Bonus Pack オートランメニューから DCOM95 パッチプログラムをまずインストールしてください。

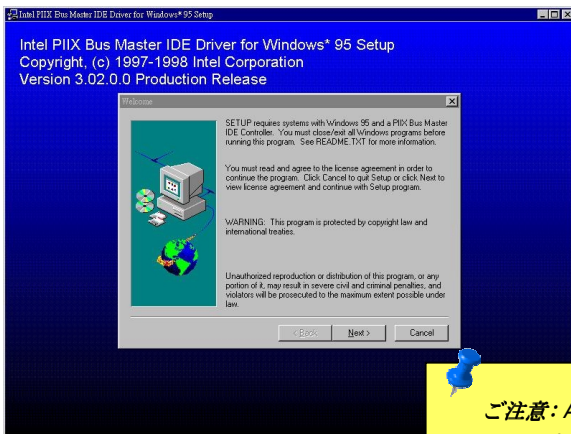
オンボードサウンドドライバのインストール

このマザーボードには AD 1885 [AC97 サウンド CODEC](#) が装備されています。オーディオドライバは Bonus Pack CD ディスクオートランメニューから見つかります。



Ultra ATA/100 IDE ドライバのインストール

[ATA/100](#)ハードディスクをサポートするには[Bus Master IDE](#)ドライバのインストールが必要です。
このドライバが必要であれば、[AOpen Bonus Pack](#) CD ディスクから見出せます。

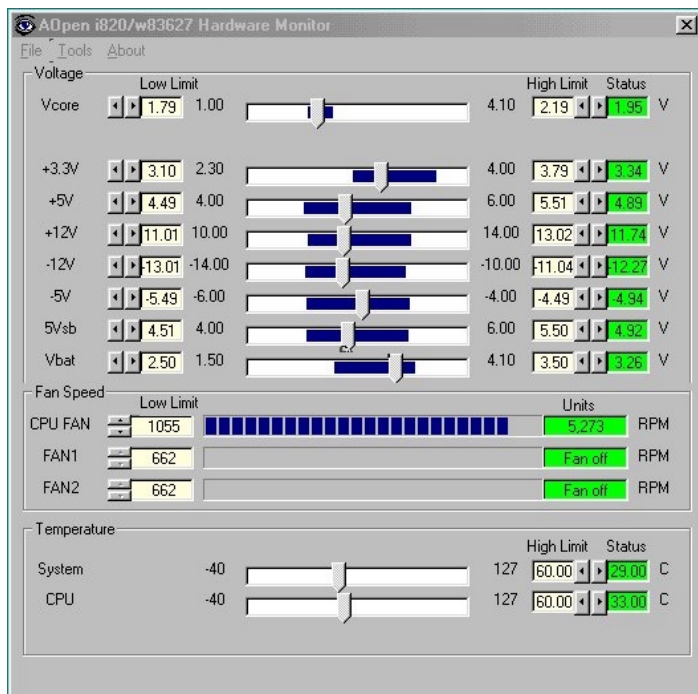


ご注意: ATA/100 IDE ドライバのインストールにより、ハードディスクへのサスペンドでエラーが生じることがあります。

ハードウェアモニタユーティリティのインストール

ハードウェアモニタユーティリティをインストールすると、CPU 温度、ファン回転数、システム電圧がモニタできます。これは [AOpen Bonus Pack](#) CD ディスクに収録されています。

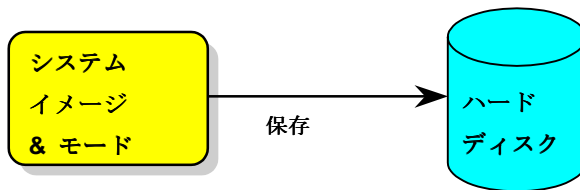




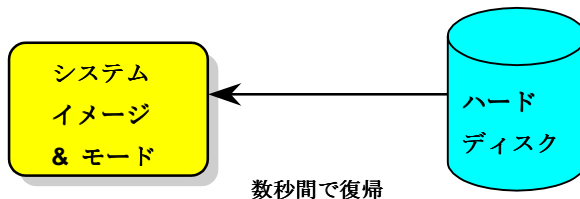
ACPI ハードディスクサスペンド

ACPI ハードディスクサスペンドは基本的には **Windows** のオペレーションシステムで管理されます。これで現在の作業 (システムモード、メモリ、画像イメージ)がハードディスクに保存され、システムは完全にオフにできます。次回電源をオンにした時は **Windows** の起動やアプリケーションの起動をせずに先回の作業がハードディスクから再度読み込まれ数秒間で復帰します。ご使用のメモリが通常の **64MB** であれば、メモリイメージを保存するため **64MB** のハードディスク空領域が必要です。

サスペンドに入る時:



次回電源オンの時:



システム必要条件

1. **AOZVHDD.EXE 1.30b** またはそれ以降のバージョン
2. **config.sys** および **autoexec.bat** の削除

Windows 98 新システムでのフレッシュインストール

1. "**Setup.exe /p j**"を実行して Windows 98 をインストールします。
2. Windows 98 のインストール完了後、**コントロールパネル > 電源の管理**を開きます。
 - a. **電源設定 > システムスタンバイ**を"なし"に設定します。
 - b. "ハイバネーション"をクリックし、"ハイバネーションサポートを有効にする"を指定、"適用"をクリックします。
 - c. "詳細設定"タブをクリックすると、"パワーボタン"上に"ハイバネーション"が表示されます。このオプションは上記のステップ **b** が実行されたあとでのみ表示され、未実行であれば、"スタンバイ"および"シャットダウン"だけが表示されます。"ハイバネーション"を選び、"適用"をクリックします。
3. DOS を起動し、AOZVHDD ユーティリティを実行します。
 - a. ディスク全体が Win 98 システムで使用される(FAT 16 または FAT 32)場合は、"**aozvhdd /c /file**"を実行してください。この時覚えておかなければならないこととして、ディスクに十分

な空きスペースが必要である点です。例えば、64 MB DRAM および 16 MB VGA カードがインストールされているなら、システムには 80 MB の空きスペースが必要です。ユーティリティは空きスペースを自動的に探します。

- b. Win 98 用にパーティションを切っている場合、"**aozvhdd /c /partition**"を実行します。当然ですが、システムには未フォーマットの空きパーティションが必要です。

4.システムを再起動します。

5.これで ACPI ハードディスクサスペンドが使用可能になりました。"**スタート > Windows の終了 > スタンバイ**"で画面は自動的にオフになります。システムがメモリ内容をハードディスクに保存するには 1 分程かかります。メモリサイズが大きくなるとこれに要する時間が長くなります。

APM から ACPI への変更 (Windows 98 のみ)

1. "Regedit.exe"を実行します。

a. 以下のパスをたどります。

HKEY_LOCAL_MACHINE

SOFTWARE

MICROSOFT

WINDOWS

CURRENT VERSION

DETECT

b. "バイナリの追加"を選び、"**ACPIOPTION**"と名前を付けます。

c. 右クリックして**変更**を選び、"0000"の後に"01"を付けて"0000 01"とします。

d. 変更を保存します。

2. コントロールパネルから"ハードウェアの追加"を選びます。Windows 98 に新たなハードウェアを自動検出させます。(この際"**ACPI BIOS**"が検出され、"**Plug and Play BIOS**"が削除されます。)

3. システムを再起動します。

4. DOS を起動し、"AOZVHDD.EXE /C /File"を実行します。



ACPI から APM への変更

1. "Regedit.exe"を実行します。

a. 以下のパスをたどります。

HKEY_LOCAL_MACHINE
SOFTWARE
MICROSOFT
WINDOWS
CURRENT VERSION
DETECT
ACPI OPTION

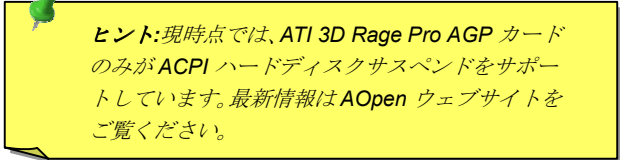
b. 右クリックして**変更**を選び、"01"を"00"として、"02"を付けて"0000 02"とします。



ヒント: "02"は、Windows 98 が ACPI を検出したものの、ACPI 機能はオフになっていることの目印です。

c. 変更を保存します。

2. コントロールパネルから"ハードウェアの追加"を選びます。Windows 98 に新たなハードウェアを自動検出させます。(この際 **"Plug and Play BIOS"**が検出され、**"ACPI BIOS"**が削除されます。)
3. システムを再起動します。
4. "ハードウェアの追加"を再度実行すると、"アドバンスド パワー マネジメント サポート"が検出されます。
5. "OK"をクリックします。

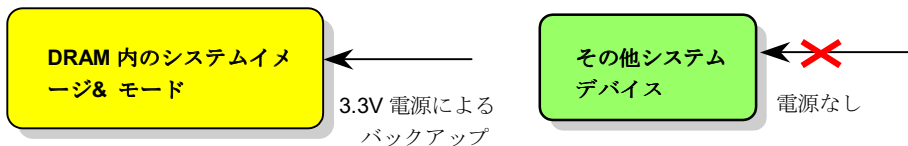


ヒント:現時点では、ATI 3D Rage Pro AGP カードのみがACPI ハードディスクサスペンドをサポートしています。最新情報はAOpen ウェブサイトをご覧ください。

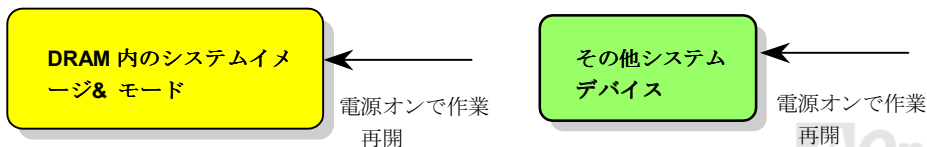
ACPI サスペンドトゥーRAM (STR)

このマザーボードは ACPI サスペンドトゥーRAM 機能をサポートしています。この機能により、Windows 98 やアプリケーションの再起動せずに、先回の作業を DRAM から再現することが可能です。DRAM へのサスペンドは作業内容をシステムメモリに保存するので、ハードディスクサスペンドより高速ですが、DRAM への電力供給が必要である面、電力消費がないハードディスクサスペンドとは異なります。

サスペンドに入る時:



次回パワーオンの時:



ACPI サスペンドトゥーDRAM を使用可能にするには、以下の手順に従います。

システム必要条件

1. ACPI 対応の OS が必要です。現在選択できるのは Windows 98 だけです。Windows 98 の ACPI モードのセットアップは ACPI [ハードディスクサスペンド](#) をご覧ください。
2. Intel INF アップデートユーティリティが正しくインストールされている必要があります。

手順

1. 以下の BIOS 設定を変更します。

BIOS Setup > Power Management Setup > [ACPI Function](#) : Enabled (オン)

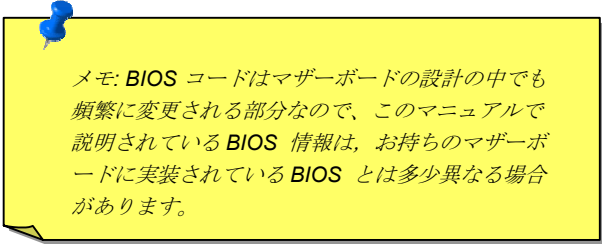
BIOS Setup > Power Management Setup > [ACPI Suspend Type](#) : S3.

2. コントロールパネル>電源の管理とたどります。“パワーボタン”を“スタンバイ”に設定します。
3. パワーボタンまたはスタンバイボタンを押すとシステムが復帰します。



AWARD BIOS

システムパラメータの変更は[BIOS](#) セットアップメニューから行います。このメニューによりシステムパラメータを設定し、128 バイトの CMOS 領域 (通常, RTC チップの中か, またはメインチップセットの中)に保存できます。[セットアップメニューを表示するには](#)、[POST \(Power-On Self Test : 電源投入時の自己診断\)](#) 実行中にキーを押してください。メニュー画面がモニターに表示されます。

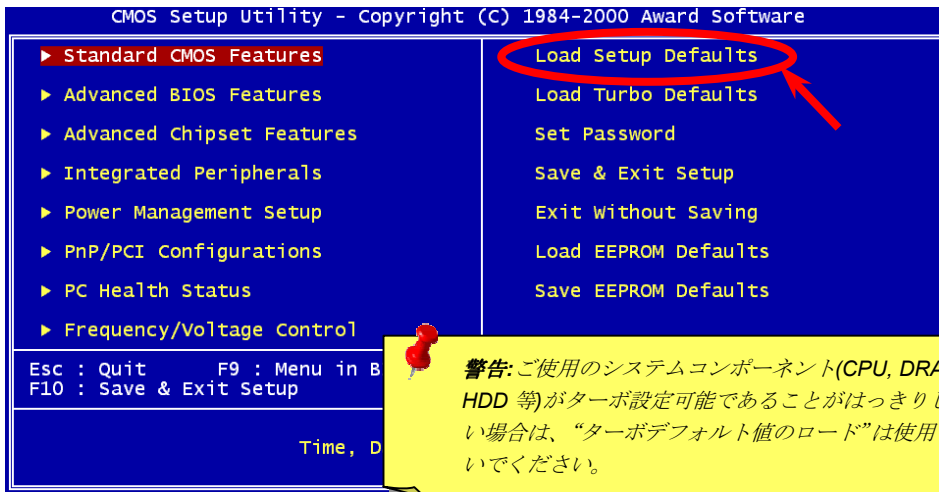


メモ: BIOS コードはマザーボードの設計の中でも頻繁に変更される部分なので、このマニュアルで説明されている BIOS 情報は、お持ちのマザーボードに実装されている BIOS とは多少異なる場合があります。

BIOS セットアップの開始

Del

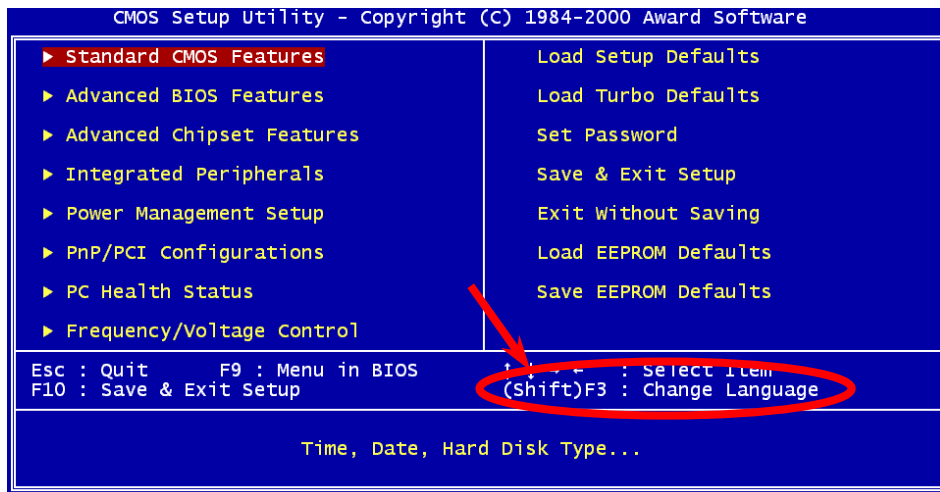
ジャンパー設定およびケーブル接続が正しく行われたなら準備完了です。電源をオンにし、[POST \(Power-On Self Test : 電源投入時の自己診断\)](#)実行中にキーを押すと、BIOS セットアップに移行します。推奨される最適なパフォーマンスには"[Load Setup Defaults](#)" を選びます。



言語の変更

F3

言語の変更には<F3>キーを押します。使用可能な BIOS 領域のサイズによりますが、英語、ドイツ語、日本語、中国語のいずれかを使用できます。



Standard CMOS セットアップ

"Standard CMOS Features" (標準的な CMOS セットアップ) では、日付、時刻、ハードディスクのタイプと言った基本的なシステム・パラメータを設定します。項目をハイライト表示 (指定) するには矢印キーを使い、次にその値を選択するには<PgUp>または<PgDn>キーを用います。

```

CMOS Setup Utility - Copyright (C) 1984-2000 Award Software
Standard CMOS Features

```

Date (mm:dd:yy)	Thu, Apr 13 2000	Item Help
Time (hh:mm:ss)	15 : 55 : 44	Menu Level ▶
▶ IDE Primary Master	Press Enter 10243 MB	Change the day, month, year and century
▶ IDE Primary Slave	Press Enter 4311 MB	
▶ IDE Secondary Master	Press Enter None	
▶ IDE Secondary Slave	Press Enter None	
Drive A	1.44M, 3.5 in.	
Drive B	None	
Video	EGA/VGA	
Halt On	All Errors	
Base Memory	640K	
Extended Memory	65472K	
Total Memory	1024K	

```

↑|←:Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help
F3:Language F5:Previous Values F6:Setup Defaults F7:Turbo Defaults

```


Standard CMOS Features > Date (mm:dd:yy)

日付をセットするには、**Date** の項目をハイライト表示させ、<PgUp>または<PgDn>を使って現在の日付に合わせます。日付のフォーマットは月，日，年です。

Standard CMOS Features > Time (hh:mm:ss)

時刻をセットするには、**Time** の項目をハイライト表示させ、<PgUp>または<PgDn>を使って，時，分，秒のフォーマットで現在の時刻に合わせます。24 時間制の表現を用います。

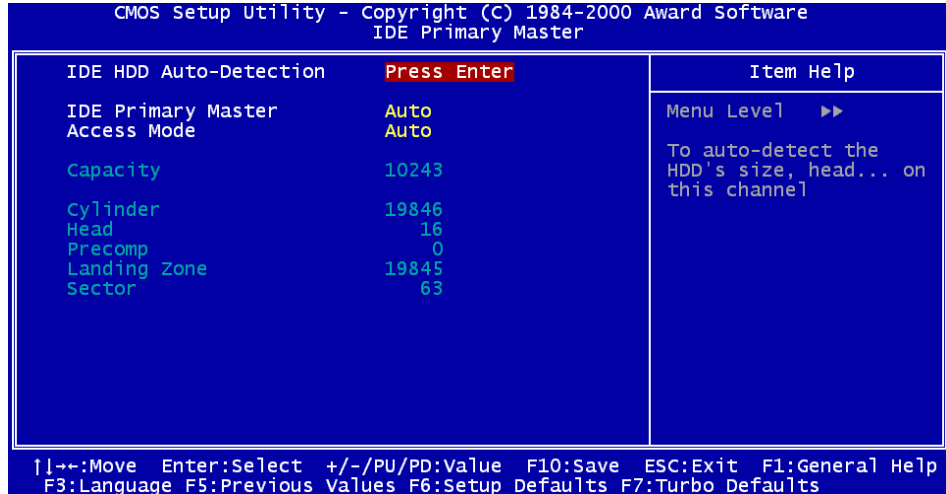
Standard CMOS Features > IDE Primary Master

Standard CMOS Features > IDE Primary Slave

Standard CMOS Features > IDE Secondary Master

Standard CMOS Features > IDE Secondary Slave

ハードディスクの詳細設定には<Enter>を押して次ページに移ります。



Standard CMOS Features > IDE Primary Master > IDE HDD Auto-Detection

IDE HDD Auto-Dete ction

この項目を指定すると、[POST](#) (電源投入時の自己診断)時に IDE ハードディスクのパラメータ群が自動検出されます。パラメータにはサイズ (容量)、シリンダー数、ヘッド数、プリコンペンセーションの開始シリンダー番号、ヘッド・ランディングゾーンのシリンダー番号、トラック当たりのセクター数が含まれます。

Standard CMOS Features > IDE Primary Master > IDE Primary Master

IDE Primary Master

None
Auto
Manual

この項目で、IDE ハードディスクのパラメータを手動設定が可能になります。デフォルト設定は **Auto** で、インストールされているハードディスクのパラメータ群を、[POST](#) (システム電源投入時の自己診断) 時に自動的に検出します。ご自分で違うパラメータにセットする場合は、**Manual** を選んでください。

IDE の CDROM は常に自動検出されます。

Standard CMOS Features > IDE Primary Master > Access Mode

Access Mode

Normal
LBA
Large
Auto

この項目で IDE ハードディスクの転送モードを指定します。パラメータには容量、シリンダー数、ヘッド数、プリコンペンセーションの開始シリンダー番号、ヘッド・ランディングゾーンのシリンダー番号、トラック当たりのセクター数が含まれます。デフォルト設定は **Auto** で、インストールされているハードディスクのパラメータ群を、POST（システム電源投入時の自己診断）時に自動的に検出します。ご自分で違うパラメータにセットする場合は、**Manual** を選んでください。IDE の CDROM は常に自動検出されます。

Standard CMOS Features > Drive A

Standard CMOS Features > Drive B

Drive A

None
360KB 5.25"
1.2MB 5.25"
720KB 3.5"
1.44MB 3.5"
2.88MB 3.5"

フロッピードライブのタイプを指定します。このマザーボードのサポートしている規格およびタイプは左表の通りです。



Standard CMOS Features > Video

Video

EGA/VGA

CGA 40

CGA 80

Mono

使用するビデオカードのタイプを指定します。デフォルトの設定値は EGA/VGA となっています。最近の PC では VGA のみが使われている事から、この選択画面はほとんど無意味になりつつあり、将来は削除されると思われます。

Standard CMOS Features > Halt On

Halt On

No Errors

All Errors

All, But Keyboard

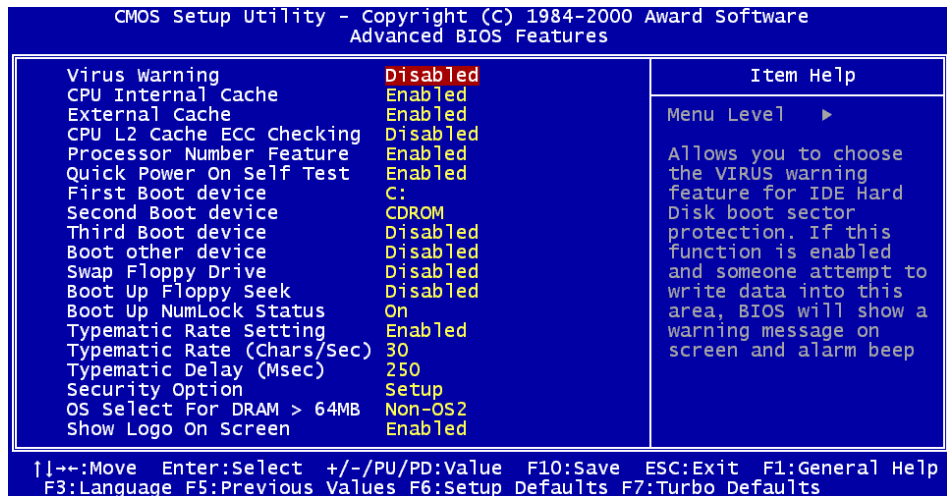
All, But Diskette

All, But Disk/Key

このパラメータを使うと、[POST](#)（電源投入時の自動診断）でエラーの検出された場合に、どんな条件でシステム停止にするかを決める事ができます。

Advanced BIOS 機能設定

メインメニューで"Advanced BIOS Features"を選ぶと、下図の画面が表示されます。



Advanced BIOS Features > Virus Warning

Virus Warning

Enabled

Disabled

このパラメータを Enabled (オン) にすると、ウィルス検出時に警告メッセージが表示されます。この機能はウィルスがハードディスクのブート・セクターやパーティション・テーブルへの侵入を防止します。ブート時にハードディスクのブート・セクターに対して書き込みをしようとするシステムを止め、次の警告メッセージを表示します。問題を突き止めるためにはアンチウイルスプログラムを実行してください。

! WARNING !

Disk Boot Sector is to be modified
Type "Y" to accept write, or "N" to abort write
Award Software, Inc.

Advanced BIOS Features > CPU Internal Cache

CPU Internal Cache

Enabled

Disabled

このパラメータを **Enabled** (オン) にすると、CPU 内部キャッシュ(現時点では **PBSRAM** キャッシュ)が有効になります。
Disabled (オフ) にするとシステムは遅くなります。トラブルシューティングの場合以外は、**Enabled** にしておくことをお勧めします。

Advanced BIOS Features > External Cache

External Cache

Enabled

Disabled

このパラメータを **Enabled** (オン) にすると、2次キャッシュ(現時点では **PBSRAM** キャッシュ)が有効になります。
Disabled (オフ) にするとシステムは遅くなります。トラブルシューティングの場合以外は、**Enabled** にしておくことをお勧めします。

Advanced BIOS Features > CPU L2 Cache ECC Checking

**CPU L2 Cache ECC
Checking**

Enabled
Disabled

この項目で L2 キャッシュの [ECC](#) チェック機能をオン・オフします。

Advanced BIOS Features > Processor Number Feature

**Processor Number
Feature**

Enabled
Disabled

この項目で Pentium III の CPU 番号機能をオン・オフします。

Advanced BIOS Features > Quick Power On Self Test

**Quick Power on Self
Test**

Enable
Disabled

このパラメータを Enabled (オン) にすると、通常チェックしている項目を省くことにより、[POST](#) に要する時間が短縮されます。

Advanced BIOS Features > First Boot Device**Advanced BIOS Features > Second Boot Device****Advanced BIOS Features > Third Boot Device****First Boot Device**

A:
LS/ZIP
C:
SCSI
CDROM
D:
E:
F:
LAN
Disabled

このパラメータによって、システム起動時のドライブ検出の順序を指定することができます。ハードディスクのID は次の通りです：

C: プライマリー (主) マスター

D: プライマリー (主) スレーブ

E: セカンダリー (副) マスター

F: セカンダリー (副) スレーブ

LS: LS120

Zip: IOMEGA ZIP ドライブ

LAN: ブート ROM 付き LAN カード

Advanced BIOS Features > Boot Other Device

Boot Other Device

Enabled
Disabled

このパラメータにより、上記以外のデバイスによる起動が可能になります。

Advanced BIOS Features > Swap Floppy Drive

Swap Floppy Drive

Enabled
Disabled

この項目でフロッピードライブ指定が交換可能です。例えば、**A** と **B** の 2 台のフロッピードライブのある場合、1 番目を **B** にして 2 番目を **A** にする、あるいはその逆に設定することができます。

Advanced BIOS Features > Boot Up Floppy Seek

Boot Up Floppy Seek

Enabled
Disabled

この項目設定で、システムは POST 実行中にフロッピードライブを検出、アクセスします。

Advanced BIOS Features > Boot Up NumLock Status

Boot Up NumLock StatusOn
Off

このパラメータをオンにすると、起動後のテンキー部の機能は数字キーモードになります。Off にすると、この機能はオフになり、起動後はテンキー部は数字キーとしてではなく、カーソル制御の機能に変わります。

Advanced BIOS Features > Typematic Rate Setting

Typematic Rate SettingEnabled
Disabled

キーボードのリピート機能をオン・オフします。オンにすると、キーボードのキーを押し続けることで連続入力が可能になります。

Advanced BIOS Features > Typematic Rate (Chars/Sec)

Typematic Rate (Chars/Sec)6, 8, 10, 12, 15, 20,
24, 30

この項目で連続入力の際の速度を設定します。デフォルト値は 30 文字/秒です。

Advanced BIOS Features > Typematic Delay (Msec)

Typematic Delay (Msec)

250, 500, 750, 1000

このパラメータで最初のキー入力から 2 番目のキー入力までの遅延時間（連続入力の開始時間）を指定します。

Advanced BIOS Features > Security Option

Security Option

Setup

System

この画面で**System** のオプションを選ぶと、システムのブートやBIOS のセットアップ操作に対してアクセス制限を行います。システム起動の都度、画面にはパスワード入力を求めるプロンプトが現れます。

Setup のオプションでは、BIOS のセットアップ操作に対してのみアクセス制限を行います。

このセキュリティ機能をオフにするには、メイン画面のパスワード設定メニューを選び、パスワードとしては何も入力せずにただ<Enter> キーを押します。

Advanced BIOS Features > OS Select for DRAM > 64MB**OS Select for DRAM**
> 64MB

OS/2

Non-OS/2

OS/2 オペレーティング・システムをお使いで、64 MB 以上のメモリーのある場合には、ここで **OS/2** の方を指定してください。

Advanced BIOS Features > Show Logo On Screen**Show Logo On**
Screen

Enabled

Disabled

この項目で **POST** 実行中に **AOpen** のロゴを表示するか否かを指定します。

アドバンストチップセット機能設定

"Advanced Chipset Features" (アドバンストチップセット機能の設定) には、チップセットに依存する機能の設定項目が集められており、システム性能に密接に関連しています。

CMOS Setup Utility - Copyright (C) 1984-2000 Award Software
Advanced Chipset Features

	Item Help
SDRAM CAS Latency Time	3
SDRAM Cycle Time Tras/Trc	6/8
SDRAM RAS-to-CAS Delay	2
SDRAM RAS Precharge Time	2
System BIOS Cacheable	Disabled
Video BIOS Cacheable	Enabled
Memory Hole At 15M-16M	Disabled
Delayed Transaction	Enabled
On-Chip Video	Disabled
Display Cache Frequency	PCI CLK x4
* Onboard Display Cache Setting *	
CAS# Latency	3
Paging Mode Control	Open
RAS-to-CAS Override	by CAS
RAS# Timing	Slow
RAS# Precharge Timing	Slow

↑|←:Move Enter:Select +/-/PU/PD:V
F3:Language F5:Previous Values F6:S

警告：ここでの内容を少しでも変更される場合には、メニューの項目内容を十分に理解していることをご確認ください。システムの性能をアップさせるためにこのパラメータ設定を変えることは自由です。ただし、その変更が本システムの設定に対して正しくない場合には、システムが不安定になる場合があります。

Advanced Chipset Features > SDRAM CAS Latency Time

SDRAM CAS Latency Time

2
3

このSDRAM タイミングはクロックから計算されます。この値の変更はSDRAMの性能に影響します。デフォルト設定は2クロックです。システムが不安定になる場合は、2Tから3Tに変更します。

このオプションはシステムにSDRAMがインストールされている場合のみ有効です。

Advanced Chipset Features > SDRAM Cycle Time Tras/Trc

SDRAM Cycle Time Tras/Trc

5/7
6/8

この項目はSDRAMの性能に影響します。システムが起動しない場合はこの項目を6/8に設定します。

Advanced Chipset Features > SDRAM RAS-to-CAS Delay

**SDRAM RAS-to-CAS
Delay**3
2

SDRAM RAS-to-CAS Delay は SDRAM の性能に影響する重要な項目です。システムが起動しない場合は**3**に設定します。

Advanced Chipset Features > SDRAM RAS Precharge Time

**SDRAM RAS
Precharge Time**3
2

RAS プリチャージとは DRAM が次の RAS を生成するまでの予備時間で、RAS とは DRAM 行アドレス取得のラッチ信号です。デフォルト値は**3**です。

Advanced Chipset Features > System BIOS Cacheable

**System BIOS
Cacheable**Enable
Disable

システムが BIOS をキャッシュすることでシステムのパフォーマンスがより高速になります。

Advanced Chipset Features > Video BIOS Cacheable

**Video BIOS
Cacheable**Enabled
Disabled

ビデオ BIOS がキャッシュされて、ビデオのパフォーマンスがより高速になります。

Advanced Chipset Features > Memory Hole At 15M-16M

**Memory Hole At
15M-16M**Enabled
Disabled

このオプションにより特殊な I/O カード用のシステムメモリ領域を確保できます。チップセットはこの領域のコードまたはデータを I/O バスを通して直接アクセスします。通常この領域はメモリマップ I/O カード用に確保されます。

Advanced Chipset Features > Delayed Transaction

Delayed Transaction

Enabled
Disabled

この項目でICHのトランザクション遅延機能を制御します。
この機能は PCI サイクルのレイテンシを ISA サイクルと適合させるのに使用します。

Advanced Chipset Features > On-Chip Video

On-Chip Video

Enabled
Disabled

この項目はオンボード AGP をオン・オフするものです。

Advanced Chipset Features > Display Cache Frequency

Display Cache Frequency

PCI CLK x 3
PCI CLK x 4

このオプションでマザーボードのディスプレイキャッシュクロックを指定します。これはグラフィックスのパフォーマンスに影響します。

Advanced Chipset Features > Cas# Latency

Cas# Latency2
3

Cas# Latency は SDRAM のパフォーマンスに影響する重要な項目です。システムが起動しない場合は **3** に設定します。

Advanced Chipset Features > Paging Mode Control

Paging Mode ControlOpen
Close

この項目は SDRAM のパフォーマンスに影響します。システムが起動しない場合は **Close** に設定します。

Advanced Chipset Features > RAS-to-CAS Override

RAS-to-CAS Overrideby CAS# LT
Override (2)

この項目は SDRAM のパフォーマンスに影響します。システムが起動しない場合は **Override (2)** に設定します。

Advanced Chipset Features > RAS# Timing

RAS# Timing

Slow

Fast

この項目は SDRAM のパフォーマンスに影響します。システムが起動しない場合は **Slow** に設定します。

Advanced Chipset Features > RAS# Precharge Timing

**RAS# Precharge
Timing**

Slow

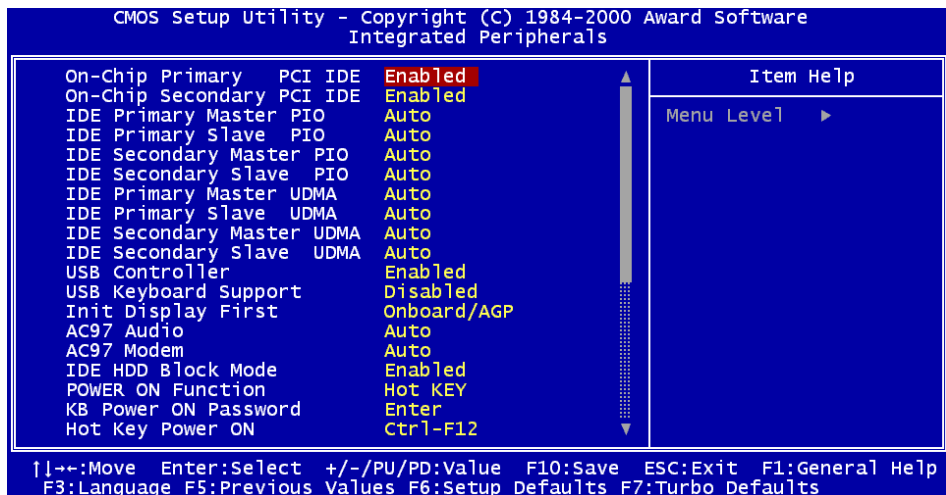
Fast

RAS プリチャージとは DRAM が次の RAS を生成するまでの予備時間で、RAS は DRAM 行アドレス取得のラッチ信号です。デフォルト設定は "**Slow**" です。

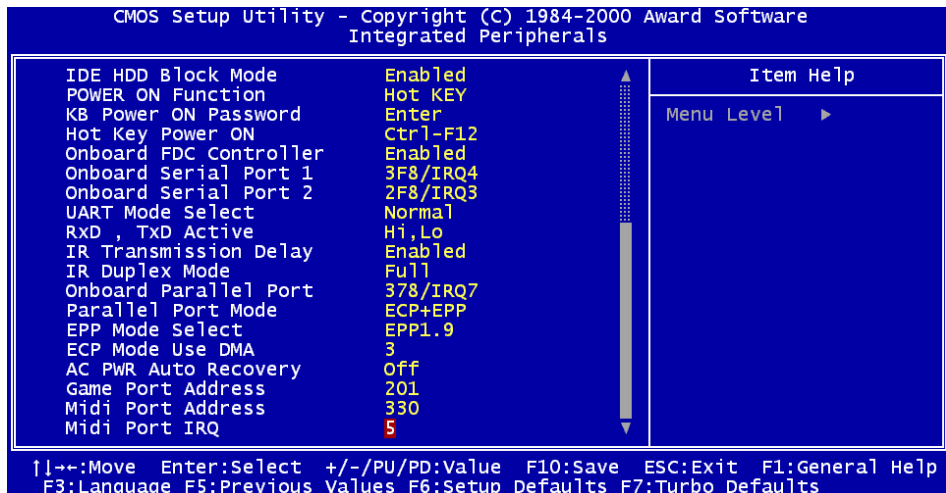
周辺装置の設定

メイン・メニューから"Integrated Peripherals" を選ぶと、次の画面になります。

ここでは入出力の機能を設定します。



このページは周辺機器設定のサブメニューの後半です。



Integrated Peripherals > On-Chip Primary PCI IDE**Integrated Peripherals > On-Chip Secondary PCI IDE****On-Chip Primary PCI
IDE**

Enabled

Disabled

このパラメータでプライマリ IDE コネクタに接続された IDE デバイスを有効にするかどうかを設定します。

Integrated Peripherals > IDE Primary Master PIO

Integrated Peripherals > IDE Primary Slave PIO

Integrated Peripherals > IDE Secondary Master PIO

Integrated Peripherals > IDE Secondary Slave PIO

**IDE Primary Master
PIO**

Auto

Mode 1

Mode 2

Mode 3

Mode 4

この項を **Auto** にすると、ハードディスクのデータ転送スピードの自動検出機能が有効になります。PIO モードはハードディスク・ドライブのデータ転送レートを指定します。例えばモード0の転送レートは3.3MB/s、モード1は5.2MB/s、モード2は8.3MB/s、モード3は11.1MB/s、そしてモード4では16.6MB/sとなっています。もしもハードディスクの性能が不安定になるようであれば、もう少し遅いモードを手動設定してみると良いでしょう。

Integrated Peripherals > IDE Primary Master UDMA**Integrated Peripherals > IDE Primary Slave UDMA****Integrated Peripherals > IDE Secondary Master UDMA****Integrated Peripherals > IDE Secondary Slave UDMA****IDE Primary Master
UDMA**

Auto

Disabled

この項目でプライマリ IDE コネクタに接続されたハードディスクドライブのサポートする [ATA/100](#) モードの設定をします。

Integrated Peripherals > USB Controller**USB Controller**

Enabled

Disabled

この項目で、[USB](#) コントローラーをオン・オフします。

Integrated Peripherals > USB Keyboard Support

USB Keyboard Support

Enabled
Disabled

ここではオンボードの BIOS 内にある USB キーボード・ドライバーを Enabled (オン) にしたり Disabled (オフ) にします。このキーボード・ドライバーは従来のキーボードコマンドがそのまま使えるようにシミュレートし、さらに、オペレーティングシステム中に USB ドライバーが含まれていない場合には、USB キーボードを POST 中または起動後にも使えるようにします。



注意: USB ドライバと USB 対応キーボードの両方を同時に使うことはできません。オペレーションシステムの中に USB ドライバが入っている場合は、"[USB Keyboard Support](#)" は Disable (オフ) にします。

Integrated Peripherals > Init Display First

Init Display First

PCI Slot
Onboard/AGP

PCI VGA カードがインストールされている場合、この項目でいずれのディスプレイカードを優先させるか指定します。



Integrated Peripherals > AC97 Audio

AC97 Audio

Auto

Disabled

この項目でオンボードオーディオをオン・オフします。

Integrated Peripherals > AC97 Modem

AC97 Modem

Auto

Disabled

この項目で AC97 モデムを 有効または無効にします。無効にすると、CNR モデムカードは正常に動作しなくなります。

Integrated Peripherals > IDE HDD Block Mode

IDE HDD Block Mode

Enabled

Disabled

この機能を使うと、複数セクターに渡るデータ転送を許すことでセクター毎の割り込み処理時間をなくし、これによってディスクの性能を向上させることができます。古い設計のものを除いて大抵の IDE ドライブは、この機能をサポートしています。

Integrated Peripherals > Power On Function

Power On Function

Any Key
Button Only
Keyboard 98
Password
Hot Key
Mouse Left
Mouse Right

この項目でウェイクオンキーボード/マウスのモードを指定します。

Any Key: このオプションは、任意のキーを押すことでシステムがウェイクします。

Button Only: ウェイクオンキーボード/マウス機能をオフにします。電源ボタンによるウェイクのみが可能です。

Keyboard 98: このオプションでは、電源ボタンおよびWINDOWS98用キーボード上の“ウェイク”キーによるウェイクが可能です。

Password: 電源ボタンの機能をオフにし、プリセットされたキー(パスワードなど)などでウェイクします。

Hot Key: このオプションを選ぶ場合、“Hot Key Power On”の項目からホットキーを指定する必要があります。

Mouse Left: このオプションではマウスの左ボタンをダブルクリックすることでシステムがウェイクします。

Mouse Right: このオプションではマウスの右ボタンをダブルクリックすることでシステムがウェイクします。



**ご注意:**

- この項目を変更した場合、システムを再起動し、Windows または DOS が立ち上がった時点で変更が有効になります。
- ウェイクオンキーボード/マウス機能を使用するにはジャンパースイッチ [JP28](#) をオンに設定する必要があります。
- ウェイクオンマウス機能は PS/2 マウスにのみ使用可能です。
- 設定したパスワードを忘れた場合、[CMOS のクリア](#) を実行してください。
- DOS 上でウェイクオンマウス機能を使用する場合、マウスの DOS 用ドライバをインストールする必要があります。

Integrated Peripherals > KB Power On Password**KB Power On
Password**

パスワードとして 1-5 個のキーを指定します。



Integrated Peripherals > Hot Key Power On

Hot Key Power On

Ctrl-F1, Ctrl-F2, Ctrl-F3,
Ctrl-F4, Ctrl-F5, Ctrl-F6,
Ctrl-F7, Ctrl-F8, Ctrl-F9,
Ctrl-F10, Ctrl-F11,
Ctrl-F12

“Power On Function” で “Hot Key”を選択した場合、ここでホットキーを指定します。

Integrated Peripherals > Onboard FDC Controller

Onboard FDC Controller

Enabled
Disabled

このパラメータを **Enabled (オン)** にすると、お持ちのフロッピー・ドライブを個々のコントローラー カードにではなくてオンボードのフロッピー用コネクタに接続できます。個々のコントローラー カードをお使いになりたい場合にはこの設定を **Disabled (オフ)** にします。

Integrated Peripherals > Onboard Serial Port 1

Integrated Peripherals > Onboard Serial Port 2

Onboard Serial Port 1

Auto

3F8/IRQ4


2F8/IRQ3

3E8/IRQ4

2E8/IRQ3

Disabled

この項目では、オンボードのシリアル・ポートのアドレスと割り込みを指定できます。デフォルトは **Auto** です。



メモ: ネットワークカードをご使用の場合、IRQ が競合していないことを確認してください。

Integrated Peripherals > UART Mode Select

UART Mode Select

IrDA

ASKIR

Normal

この項目は"[Onboard Serial Port 2](#)" がオンの場合にのみ設定可能です。この項目でシリアルポート 2 のモードを指定します。設定可能なモードは以下の通りです。

Normal

シリアルポート 2 をノーマルモードに設定します。これがデフォルト設定です。

IrDA (SIR)

この設定では最大 115.2Kbps の赤外線シリアル通信が可能です。

ASKIR

この設定では最大 57.6Kbps の赤外線シリアル通信ができません。

Integrated Peripherals > RxD, TxD Active

RxD, TxD Active

Hi, Hi
Hi, Lo,
Lo, Hi
Lo, Lo

この項目で UART2 で IR 機能を使用する際の RxD (データ受信)および TxD (データ送信)モードを設定します。通常はデフォルト設定のままにしておくことをお勧めします。詳細は、ご使用になる IR 機器に付属の取り扱い説明書をご覧ください。

Integrated Peripherals > IR Transmission Delay

IR Transmission Delay

Enabled
Disabled

Enabled (オン) にすると、SIR が TX モードから RX モードに移行する際、4 文字分のディレイを取ります。

Integrated Peripherals > IR Duplex Mode

IR Duplex Mode

Full
Half

この項目で IR 通信を全二重または半二重に設定します。通常は、データ転送が双方向同時に行われる全二重モードがより高速です。

Integrated Peripherals > Onboard Parallel Port

Onboard Parallel Port

3BC/IRQ7

378/IRQ7

278/IRQ5

Disabled

この項目でオンボードの平行ポートアドレスおよび割り込みを設定します。

注意：I/O カードを平行ポートと同時使用する場合はアドレスおよびIRQが競合しないようにします。

Integrated Peripherals > Parallel Port Mode

Parallel Port Mode

SPP

EPP

ECP

ECP + EPP

ここではパラレルポートのモードを設定します。モードのオプションとしては、SPP (Standard and Bi-direction Parallel Port)、EPP (Enhanced Parallel Port) および ECP (Extended Parallel Port) があります。

SPP (標準双方向パラレルポート)

SPP とは IBM AT や PS/2 との互換モードです。

EPP (エンハンスドパラレルポート)

EPP とはラッチなしでの双方向直接読み書きを可能にしてスループットを上げたパラレルポートです。

ECP (エクステンデッドパラレルポート)

ECP は DMA 転送と、さらに RLE (ランレングスエンコード) 方式による圧縮と伸長をサポートしたパラレルポートです。

Integrated Peripherals > EPP Mode Select

EPP Mode Select

EPP1.7

EPP1.9

この項目で EPP モードプロトコルを選択します。

Integrated Peripherals > ECP Mode Use DMA

ECP Mode Use DMA

3

1

この項目で ECP モードでの DMA チャンネルを設定します。

Integrated Peripherals > AC PWR Auto Recovery

AC PWR Auto Recovery

Former Status

On

Off

従来の ATX システムでは AC 電源が切断された場合、電源オフ状態からの再開となります。この設計では、無停電電源を使用しないネットワークサーバーやワークステーションにとって常に電源オン状態を維持することが要求され、不都合です。この問題を解決するのが、この機能です。オプションで On を指定すると、AC 電源回復後自動的に起動します。一方、Off を指定した場合はシステムは起動しません。

Former-Sts (以前の状態)のオプションを指定すると、AC 電源が落ちる直前のシステム状態 (オン・オフいずれか) に戻ります。

Integrated Peripherals > Game Port Address

Game Port Address

Disabled

201

209

この項目でゲームポート用アドレスを指定します。

Integrated Peripherals > Midi Port Address

Midi Port Address

Disabled

330

300

290

この項目で MIDI ポート用アドレスを指定します。

Integrated Peripherals > Midi Port IRQ

Midi Port IRQ

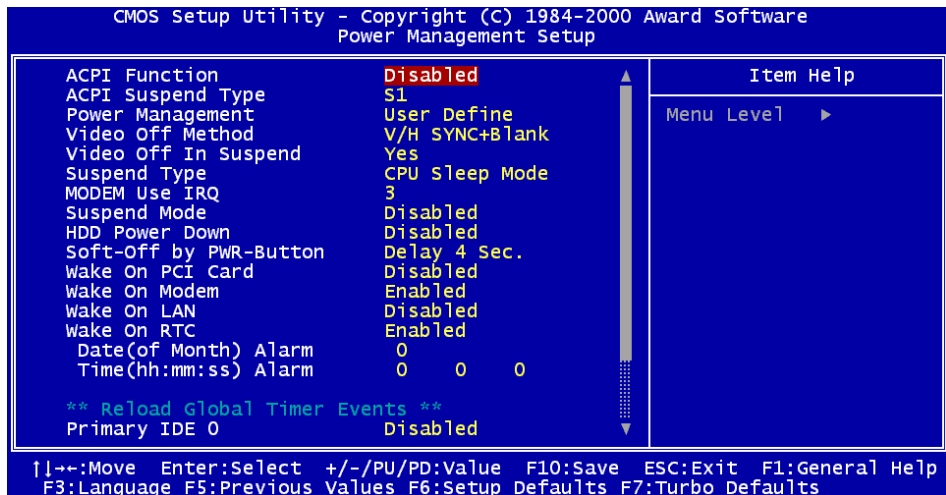
5

7

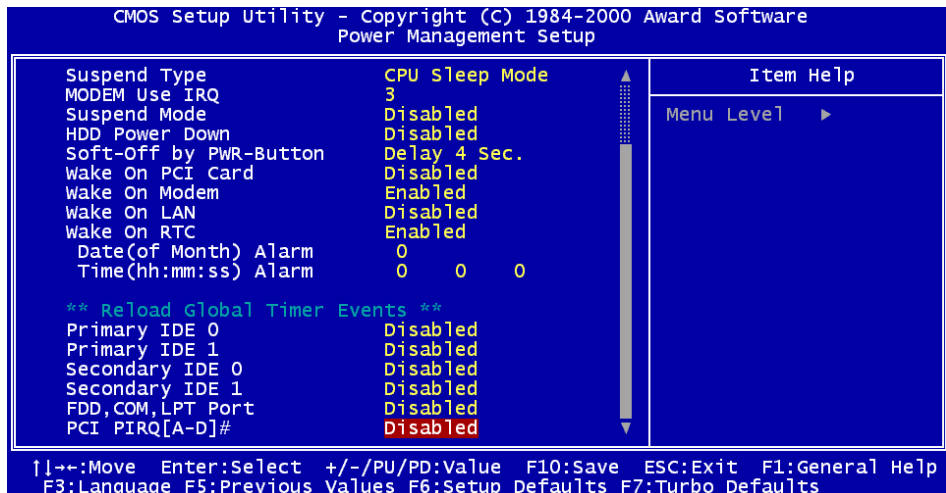
この項目で MIDI ポート用 IRQ を指定します。

パワーマネジメント設定

パワーマネジメントセットアップ画面ではマザーボードの省電力機能を設定します。下図をご参照ください。



このページはパワーマネジメントのサブメニューの後半です。



Power Management Setup > ACPI Function

ACPI Function

Enabled
Disabled

ご使用のオペレーションシステムが[ACPI](#)をサポートしている場合は、この項目を **Enabled** (オン) にします。そうしないと、予期しないエラーが発生する可能性があります。OS が APM モードであれば、この設定は **Disabled** (オフ) のままで結構です。

Power Management Setup > ACPI Suspend Type

ACPI Suspend Type

S1
S3

この項目でサスペンドのタイプを設定します。S1 はパワーオンサスペンドで、S3 はサスペンドトゥーRAM です。

Power Management Setup > Power Management

Power Management

Max Saving
Min Saving
User Define

この機能でパワーセーブモードのデフォルトパラメータを設定します。ユーザー御自身で設定されるか、パワーマネジメント機能をオフにする場合は **User Define** を指定します。

モード	サスペンド	HDD 電源オフ
省電機能最小時	1時間後	15分後
省電機能最大時	1分後	1分後

Power Management Setup > Video Off Method

Video Off Method

V/H SYNC + Blank
DPMS
Blank Screen

これは、モニタをオフにする方法を指定するものです。
Blank Screen (ブランク表示) はビデオバッファにブランク信号を書き込みます。V/H SYNC+Blank は BIOS に VSYNC および HSYNC 信号をコントロールさせます。この機能は DPMS (ディスプレイパワーマネジメント規格) 対応モニタ へのみ有効です。DPMS モードは VGA カードの提供する DPMS 機能を使用します。

Power Management Setup > Video Off In Suspend

Video Off In Suspend

No
Yes

このオプションは、サスペンドモード時のモニタ表示のオン・オフを指定します。

Power Management Setup > Suspend Type

Suspend Type

PWR On Suspend

CPU Sleep Mode

APMサスペンドモードをこの項目で指定します。**PWR On Suspend (パワーオンサスペンド)**を選ぶと、CPUクロックは止まり、他のデバイスがすべてオフ状態になります。ただし、電源はオンのままでモデム、キーボード/マウスの状態を監視し、動きがあるとシステムは全活動を再開します。システムの活動はIRQ信号またはI/Oによりモニタされます。**CPU Sleep Mode (CPUスリープモード)**は上記オプションと同様ですが、CPUのスリープはさらに進んだ状態で、より省電力になります。

Power Management Setup > Modem Use IRQ

Modem Use IRQ

3, 4, 5, 7, 9, 10, 11, N/A

この項目で、モデムの使用するIRQを指定します。

Power Management Setup > Suspend Mode

Suspend Mode

Disabled, 1-2 Min,
2-3 Min, 4-5 Min,
8-9 Min, 12 Min,
20 Min, 30 Min,
40 Min, 1 Hour

システムがサスペンドモードに入るまでの経過時間を指定します。サスペンドモードは"Suspend Type"により、パワーオンサスペンドかハードディスクサスペンドを指定します。

Power Management Setup > HDD Power Down

HDD Power Down

Disabled, 1 Min,,
15 Min

この項目で IDE HDD が省電力モードに入るまでの時間を指定します。この項目は当セクションで前述のパワーモード(スタンバイ、サスペンド)とは無関係です。

Power Management Setup > Soft-Off by PWR-BTTN

Soft-Off by PWR-BTTN

Delay 4 sec.
Instant-Off

これは ACPI の仕様であり、ハードウェアによりサポートされています。**Delay 4 sec. (4 秒遅延)** を指定すると、前部パネルのソフトパワースイッチは電源オン、サスペンド、電源オフの切り替えができます。オン状態で、スイッチが 4 秒より短く押された場合は、システムはサスペンドモードに入ります。4 秒以上押し続けると、電源オフになります。デフォルト設定は **Instant-Off (即時オフ)** で、ソフトスイッチは電源オン・オフのみ可能で、4 秒以上押ししている必要はありませんが、サスペンドモードへの移行もありません。

Power Management Setup > Wake On PCI Card

Wake On PCI Card

Enabled
Disabled

これは PCI 2.2 規格の機能です。PCI バスは PCI カードへのスタンバイ電流を供給し、PCI カードで何らかの活動があると、システムはウェイクアップします。

Power Management Setup > Wake On Modem

Wake On Modem

Enabled
Disabled

このオプションではモデムウェイクアップ機能をオン・オフします。

Power Management Setup > Wake On LAN

Wake On LAN

Enabled
Disabled

このオプションでは LAN ウェイクアップ機能をオン・オフします。

Power Management Setup > Wake On RTC

Wake On RTC

Enabled
Disabled

ウェイクアップタイマーはアラームの様なもので、特定のアプリケーションを使用するためシステムを指定した時間にウェイクアップ、パワーオンさせるのに使用します。指定は毎日または一か月以内の特定の日が設定できます。日時は秒単位まで指定可能です。このオプションで RTC ウェイクアップ機能をオン・オフします。

Power Management Setup > Date (of Month) Alarm

Date (of Month) Alarm

0, 1,, 31

この項目はウェイクオン RTC タイマーのオプションをオンにした場合に表示されます。ここでシステムを起動する日付を指定します。例えば、15 にセットするとシステムは毎月 15 日に起動します。



ヒント: この項目を 0 にセットすると、毎日指定された時刻(ウェイクオン RTC タイマーで指定)にシステムが起動します。

Power Management Setup > Time (hh:mm:ss) Alarm

Time (hh:mm:ss) Alarm

hh:mm:ss

この項目はウェイクオン RTC タイマーのオプションをオンにした場合に表示されます。ここでシステムを起動する時刻を指定します。

Power Management Setup > Primary IDE 0

Power Management Setup > Primary IDE 1

Power Management Setup > Secondary IDE 0

Power Management Setup > Secondary IDE 1

Power Management Setup > FDD, COM, LPT Port

Power Management Setup > PCI PIRQ [A-D] #

Primary IDE 0

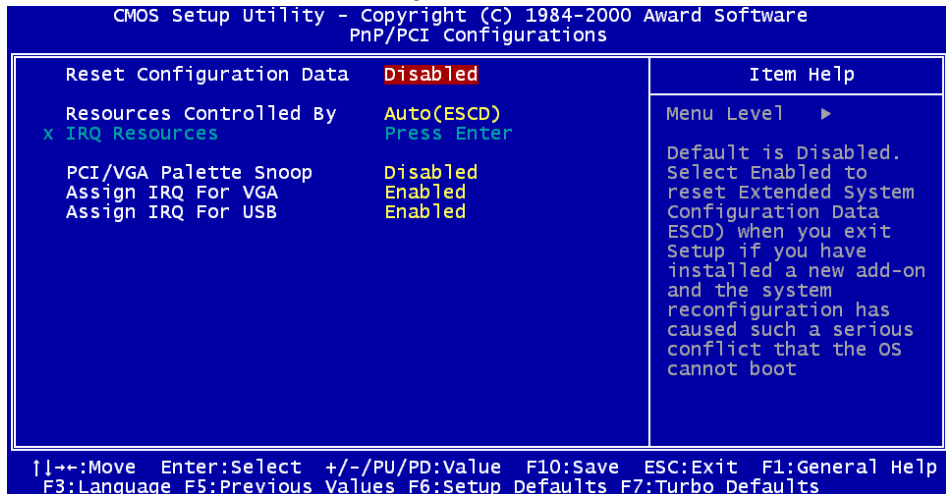
Enabled

Disabled

ここで電源オフに移行する際の IDE、フロッピー、シリアル、パラレル、PCI IRQ イベントの検知をオン・オフ指定します。

PNP/PCI の設定

PnP/PCI の設定画面では、システムにインストールされている ISA や PCI の装置に関する設定を行います。メインの画面で"PnP/PCI Configurations" を選ぶと、次のメニュー画面が現れます。



PnP/PCI Configurations > Reset Configuration Data

Reset Configuration Data

Enabled
Disabled

IRQ の手動設定やシステム設定の後で競合が生じた場合、このオプションをオンにしておくことで、システムは自動的にユーザーによる設定をキャンセルし、IRQ, DMA, I/O アドレスを再設定します。

PnP/PCI Configurations > Resources Controlled By

Resources Controlled By

Auto (ESCD)
Manual

この項を Manual にすると、ISA や PCI の装置に対する IRQ と DMA の割り当てを、ユーザーが個別に設定できます。自動設定には **Auto** を指定します。

PnP/PCI Configurations > IRQ Resources

IRQ-3 assigned to**IRQ-4 assigned to****IRQ-5 assigned to****IRQ-7 assigned to****IRQ-9 assigned to****IRQ-10 assigned to****IRQ-11 assigned to****IRQ-12 assigned to****IRQ-14 assigned to****IRQ-15 assigned to****PCI Device****Reserved**

リソースを手動設定する場合、割り込みを使用するデバイスのタイプに応じて割り込み設定します。

指定可能な割り込み (IRQ) は、IRQ3 (COM2), IRQ4 (COM1), IRQ5 (ネットワーク/サウンド、その他), IRQ7 (プリンタ、その他), IRQ9 (ビデオ、その他), IRQ10 (SCSI、その他), IRQ11 (SCSI、その他), IRQ12 (PS/2 マウス), IRQ14 (IDE1), IRQ15 (IDE2)です。

PnP/PCI Configurations > PCI/VGA Palette Snoop

PCI/VGA Palette Snoop

Enabled
Disabled

この項を Enabled にすると、パレット・レジスターに変更が加えられた時に PCI VGA カードが反応せず（従って競合も生じず）、通信の信号に対しては応答することなしにデータを受け入れるようセットします。これは例えば MPEQ やビデオ・キャプチャーなどの 2 枚のディスプレイ・カードが同じパレット・アドレスを使用しており、同時に PCI バスにつながっている場合にのみ効果があります。この場合 MPEQ / ビデオ・キャプチャーは通常動作をしている間、PCI VGA カードは動作しません。

PnP/PCI Configurations > Assign IRQ For VGA

Assign IRQ For VGA

Enabled
Disabled

この項目で、VGA への IRQ 割り当てをオン・オフします。

PnP/PCI Configurations > Assign IRQ For USB**Assign IRQ For USB**

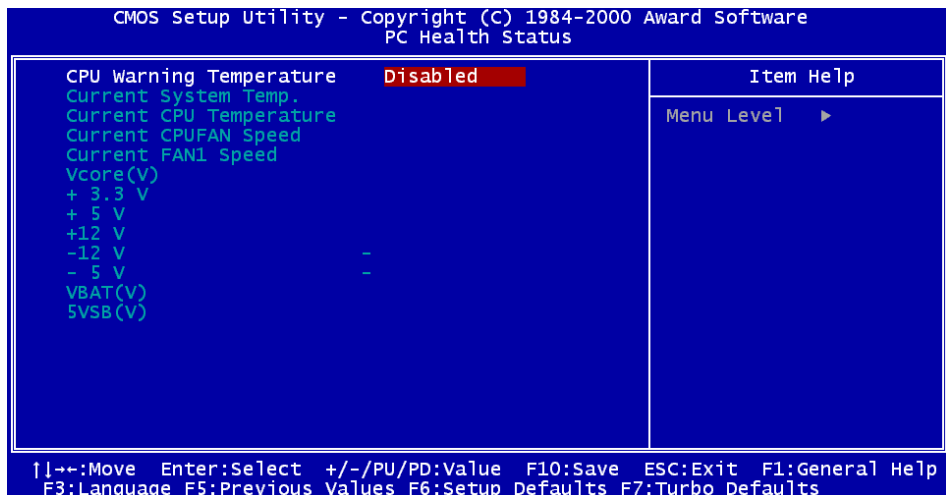
Enabled

Disabled

この項目で、USB への IRQ 割り当てをオン・オフします。

PC ヘルスモニタ

このサブメニューには、ハードウェアモニタ状態の表示、さらに基本的な制御機能も備わっています。当サブメニューの項目を設定せずに「ハードウェアモニタユーティリティ」をインストールすることもできます。



PC Health Status > CPU Warning Temperature**CPU Warning Temperature**

Disabled

50°C / 122°F

53°C / 127°F

56°C / 133°F

60°C / 140°F

63°C / 145°F

66°C / 151°F

70°C / 158°F

この項目は CPU 危険温度を設定します。CPU 温度がここで設定された温度を超える場合、CPU 速度は自動的に遅くなり、BIOS からの警告メッセージが表示されます。

クロックおよび電圧の制御

このサブメニューでは、CPU 電圧およびメモリのクロックが設定可能です。

```
CMOS Setup Utility - Copyright (C) 1984-2000 Award Software
Frequency/Voltage Control

CPU Speed Detected          0
Clock Spread Spectrum      OFF
CPU Speed Setup            80 x6.5 = 520
SDRAM Clock(MHz)          120
CPU Voltage Default        2.05 V
CPU Voltage Setting

Item Help
Menu Level1 ▶
1. If CPU speed detected does not match the CPU speed setup. It is probably caused by the CPU has a fixed FSB clock or fixed clock ratio.
2. If you fail to reboot the system, please press <Home> key first and then press Reset button at the same time.

↑|←→:Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help
F3:Language F5:Previous Values F6:Setup Defaults F7:Turbo Defaults
```

Frequency / Voltage Control > CPU Spread Detected

CPU Spread Detected

この欄には現在の CPU 速度が表示されます。

Frequency / Voltage Control > Clock Spread Spectrum

**Clock Spread
Spectrum**

ON

OFF

この項目は EMI テスト用にクロックスペッドスペクトルを設定するものです。通常、このデフォルト設定の変更は不要です。

Frequency / Voltage Control > CPU Speed Setup

CPU Speed Setting

FSB clock:

66.6, 66.8, 68.3, 75.3,
78, 80, 95, 100, 100.2,
105, 110, 114, 117,
122, 127, 129, 133.3,
133.6, 138, 140, 144,
146.6, 150, 157.3, 160
and 166 MHz.

Clock Ratio:

x2, x2.5, x3, x3.5, x4,
x4.5, x5, x5.5, x6,
x6.5, x7, x7.5, and x8

この項目は CPU クロック速度を指定するのに使用します。

CPU クロック = FSB クロック x クロックレシオ

Frequency / Voltage Control > SDRAM Clock (MHz)

SDRAM Clock (MHz)

この欄には SDRAM クロックが表示されます。

SDRAM クロック = FSB クロック x SDRAM クロックレシオ

Frequency / Voltage Control > CPU Voltage Default

CPU Voltage Default

この欄には使用中のプロセッサのデフォルト電圧が表示されます。

Frequency / Voltage Control > CPU Voltage Setting

CPU Voltage Setting


1.30V to 2.10V

step 0.05V

2.10V to 3.50V

step 0.1V

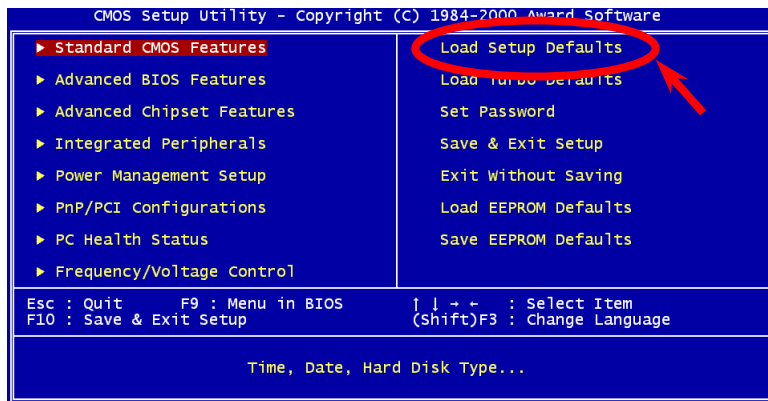
このオプションでは、オーバークロック用に CPU コア電圧をマニュアル設定できます。



警告: オーバークロックにより高い CPU コア電圧での CPU 速度は改善されるかもしれませんが、CPU を傷めたり CPU 寿命を縮める可能性があります。

デフォルト設定値のロード

"Load Setup Defaults" オプションでは、システムパフォーマンスを最適化する最適設定値を読み込みます。ここで言う「最適設定」とは次の「ターボ設定」より安定したものです。**製品の動作確認、互換性および信頼性のテストならびに製造品質管理は全て"Load Setup Defaults"に基づいたものです。**通常の操作ではこの設定を使用されるようお勧めします。このマザーボードでは"Load Setup Defaults"が一番遅い設定ではありません。もしもシステムが不安定でその原因を突き止める必要がある場合には、"[Advanced BIOS Features](#)" と "[Advanced Chipset Features](#)" で扱われているパラメータを個々にセットして、より低速であるものの、より安定した設定とすることができます。



ターボデフォルト値のロード

"Load Turbo Defaults"オプションでは、"Load Setup Defaults"よりは良いパフォーマンスが得られます。これはマザーボードの機能を更に向上させたいパワーユーザーの便宜を図ったものです。ターボ設定は詳細な信頼性と互換性テストを行ったわけではなく、限られた設定および負荷 (例えば 1 枚の VGA カードと 1 組の DIMM/RIMM と行った構成)でのテストのみが行われています。**ターボ設定の使用は、チップセットの設定メニューの各項目を完全に理解されている場合に限られます。**ターボ設定の性能アップは、チップセットとアプリケーションにもよりますが、おおむね 3% から 5% 程度です。

パスワードの設定

パスワードによってユーザーのコンピュータが不正に使用されるのを防げます。パスワードを設定すると、システム起動やBIOSセットアップの際に正しいパスワードを確認する画面が現れます。

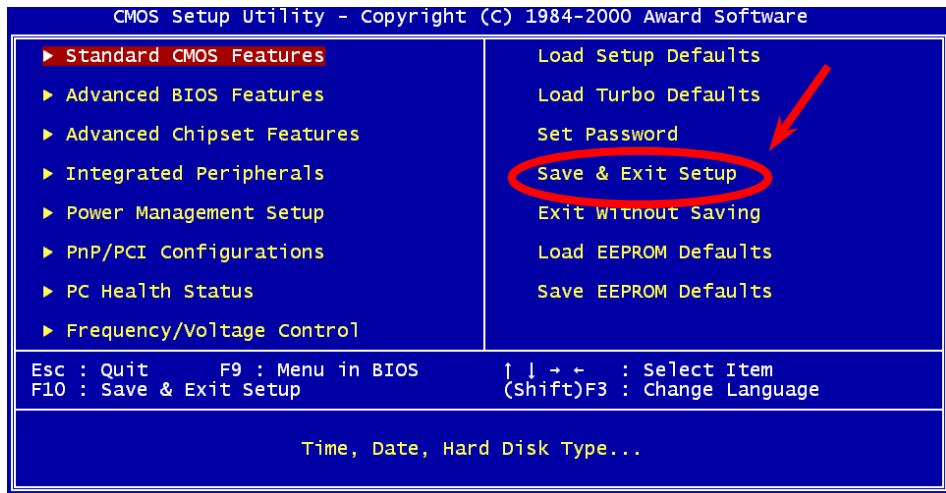
パスワードをセットするには：

1. 入力を促すプロンプトが現れたら、パスワードをタイプしてください。パスワードとしては、**8**文字までの英数字キーが使えます。入力された文字に対して、画面上のパスワード表示部分にはアスタリスク（*）が代わりに示されます。
2. パスワードをタイプし終わったら<Enter> キーを押します。
3. もう一回プロンプトが現れるので、この新規パスワード確認のために先のパスワードを再度タイプした後<Enter> キーを押します。パスワードの入力が終わると、画面は自動的に元のメイン画面に戻ります。

パスワードを無効にするには、パスワード入力のプロンプトが出た時に<Enter>キーのみを押します。画面にはパスワードを無効にしてよいかどうか確認のメッセージが表示されます。

設定を保存して終了

これでセットアップ終了前に設定された CMOS 値は全て保存されます。



保存せずに終了

CMOS の設定値変更を保存せずにセットアップを終了します。新たな設定値を保存する際は、この機能を使用しないで下さい。

EEPROM から保存データをロード

"Save EEPROM Default"を利用して、"Load Setup Default"および"Load Turbo Default"以外のユーザー設定値を[EEPROM](#)に保存し、その内容をこの機能で再び読み込むことができます。

EEPROM にデータを保存

この機能でユーザー設定値を[EEPROM](#)に保存し、CMOS 内データが失われたり設定を忘れた際にその内容を"Load EEPROM Default"機能で再び読み込むことができます。

NCR SCSI BIOS およびドライバ

[Flash ROM](#)のメモリ領域の制限のため、BIOS のバージョンによっては NCR 53C810 SCSI BIOS (DOS, Windows 3.1, OS/2 をサポート) がシステム BIOS に含まれていないものがあります。SCSI カードの多くはその SCSI BIOS をカード上に持っているので、より良いシステム性能を得るためには、NCR の SCSI カードか OS に付属のドライバーをお使いになると良いでしょう。詳しくは NCR 53C810 SCSI カードのインストール用マニュアルをご覧ください。



BIOS のアップグレード

AOpen Easy Flash は従来のフラッシュ操作よりユーザーフレンドリーな設計になっています。

[BIOS](#) バイナリファイルとフラッシュルーチンが一緒になっているので、1つのファイルを実行するだけでフラッシュ処理が可能です。

1. AOpen のウェブサイトから最新の BIOS アップグレード [zip](#) ファイル (例 : AX3SP102.ZIP) をダウンロードします。
2. これを [Unzip](#) します。エラー時の復帰に備えて、これを起動用 DOS フロッピーディスクに保存しておくことをお勧めします。
3. システムを DOS モードで再起動します。この際 EMM386 等のメモリ操作プログラムやデバイスドライバはロードしないようにしてください。約 520K の空きメモリ領域が必要です。
4. A:> AX3SP102 を実行します。


フラッシュ処理の際は絶対に電源を切らないで下さい。

Del


5. システムを再起動し、を押して [BIOS セットアップ](#) を起動します。"[Load Setup Defaults](#)" を選び、"[Save & Exit Setup \(保存して終了\)](#)"。これで OK です。



ヒント : BIOS アップグレード後 [JP30](#) ダイハード BIOS をピン 1-2 に設定するのを忘れなく。



警告： 新たな BIOS へのアップグレード後は以前の BIOS 内容が完全に置き換えられます。以前の BIOS 設定および Win95/Win98 プラグアンドプレイ情報は書き換えられるので、システムの再設定が必要となります。



ヒント： EPROM ライタを使用するのをお望みなら、解凍後のファイルに含まれる BIOS BIN ファイルを利用できます。

オーバークロック

マザーボード業界での先進メーカーである AOpen は常にお客様のご要望に耳を傾け、ユーザー皆様の様々なご要求に合った製品を開発してまいりました。マザーボードの設計の際の私たちの目標は、信頼性、互換性、先進テクノロジー、ユーザーフレンドリーな機能です。これら設計上の分野の一方には、“オーバークロッカー”と呼ばれるシステム性能をオーバークロックにより限界まで引き出すよう努めるパワーユーザーが存在します。

このセクションはオーバークロッカーの皆さんを対象としています。

この高性能マザーボードは最大 **133MHz** の CPU バスクロックをサポートします。それだけではなく、将来の CPU バスクロック用に **166MHz** のクロックジェネレーターも備えています。弊社ラボのテスト結果によれば、高品質のコンポーネントと適切な設定により **166MHz** が到達可能であることを示しています。





警告： この製品はCPU およびチップセットベンダーの設計ガイドラインにしたがって製造されています。製品仕様を超える設定は奨められている範囲外であり、ユーザーはシステムや重要なデータの損傷などのリスクを個人で負わなければなりません。オーバークロックの前に各コンポーネント特にCPU、メモリ、ハードディスク、AGP VGA カード等が通常以外の設定に耐えるかどうかを確認してください。



ヒント： オーバークロックにより発熱の問題が生じることも考慮に入れる必要があります。冷却ファンとヒートシンクがCPUのオーバークロックにより生じる余分の熱を放散する能力があるか確認してください。

VGA および HDD

VGA および HDD はオーバークロックで鍵となるコンポーネントです。以下のリストは弊社ラボでテストされた時の値です。このオーバークロックが再現できるかどうかは AOpen では保証いたしかねますのでご注意ください。

VGA: <http://www.aopen.com.tw/tech/report/overclk/mb/vga-oc.htm>

HDD: <http://www.aopen.com.tw/tech/report/overclk/mb/hdd-oc.htm>

用語解説

AC97 サウンドコーデック

基本的には AC97 規格はサウンドおよびモデム回路を、デジタルプロセッサおよびアナログ入出力用の [CODEC](#) の 2 つに分け、AC97 リンクバスでつないだものです。データプロセッサはマザーボードのメインチップセットに組み込めるので、サウンドとモデムのオンボードの手間を軽減することができます。

ACPI (アドバンスド コンフィギュレーション&パワー インタフェース)

ACPI は PC97 (1997) のパワーマネジメント規格です。これはオペレーションシステムへのパワーマネジメントを [BIOS](#) をバイパスして直接制御することで、より効果的な省電力を行うものです。チップセットまたはスーパー I/O チップは Windows 98 等のオペレーションシステムに標準レジスタインタフェースを提供する必要があります。この点は [PnP](#) レジスタインタフェースと少し似ています。ACPI によりパワーモード変更時の ATX 一時ソフトパワースイッチが設定されます。



AGP (アクセラレーテッドグラフィックポート)

AGP は高性能 3D グラフィックスを対象としたバスインタフェースです。AGP はメモリへの読み書き作業、1つのマスター、1つのスレーブのみをサポートします。AGP は 66MHz クロックの立ち上がりおよび下降の両方を利用し、2X AGP ではデータ転送速度は $66\text{MHz} \times 4 \text{ バイト} \times 2 = 528\text{MB/s}$ となります。AGP は現在 4X モードに移行中で、この場合は $66\text{MHz} \times 4 \text{ バイト} \times 4 = 1056\text{MB/s}$ となります。AOpen は 1999 年 10 月から AX6C (Intel 820)および MX64/AX64 (VIA 694x) により 4X AGP マザーボードをサポートしている初のメーカーです。

AMR (オーディオモデムライザー)

AC97 サウンドとモデムのソリューションである [CODEC](#) 回路はマザーボード上または AMR コネクタでマザーボードに接続したライザーカード(AMR カード)上に配置することが可能です。

AOpen Bonus Pack CD

AOpen マザーボード製品に付属のディスクで、マザーボード各種ドライバ、[PDF](#) 形式のオンラインマニュアル表示用の Acrobat Reader、その他役立つユーティリティが収録されています。

APM

[ACPI](#)とは異なり、BIOS が APM のパワーマネジメント機能の大部分を制御しています。AOpen ハードディスクサスペンドが APM パワーマネジメントの典型的な例です。



ATA/66

ATA/66 はクロック立ち上がりと下降時の両方を利用し、[UDMA/33](#)の転送速度の2倍となります。データ転送速度はPIO mode 4あるいはDMA mode 2の4倍で、16.6MB/s x4 = 66MB/sです。ATA/66を使用するには、ATA/66 IDE 専用ケーブルが必要です。

ATA/100

ATA/100 は現在発展中の IDE 規格です。ATA/100 も [ATA/66](#)と同様クロックの立ち上がりと降下時を利用しますが、クロックサイクルタイムは40nsに短縮されています。それで、データ転送速度は $(1/40\text{ns}) \times 2 \text{ バイト} \times 2 = 100\text{MB/s}$ となります。ATA/100を使用するにはATA/66と同様、専用の80芯IDEケーブルが必要です。

BIOS (基本入力出力システム)

BIOS は[EPROM](#)または[Flash ROM](#)に常駐する一連のアセンブリルーチンおよびプログラムです。BIOS はマザーボード上の入出力機器およびその他ハードウェア機器を制御します。一般には、ハードウェアに依存しない汎用性を持たせるため、オペレーションシステムおよびドライバは直接ハードウェア機器にはなく BIOS にアクセスするようになっています。

Bus Master IDE (DMA モード)

従来の PIO (プログラマブル I/O) IDE では、機械的な操作待ちを含めた全ての動作を CPU から管理することが必要でした。CPU 負荷を軽減するため、バスマスターIDE 機器はメモリ間でのデータのやり取りを CPU を介さずに行うことで、データがメモリと IDE 機器間で転送中にも CPU の動作を遅くさせません。バスマスターIDE モードをサポートするには、バスマスターIDE ドライバおよびバスマスターIDE ハードディスクドライブが必要です。

CODEC (符号化および復号化)

通常、CODEC はデジタル信号とアナログ信号相互の変換を行う回路を意味します。これは [AC97](#) サウンドおよびモデムソリューションの一部です。

DIMM (デュアルインライン メモリモジュール)

DIMM ソケットには合計 168 ピンがあり、64 ビットのデータをサポートします。これには片面と両面とがあり、PCB の各側のゴールドフィンガー信号が異なり、このためデュアルインラインと呼ばれます。ほとんどすべての DIMM は動作電圧 3.3V の [SDRAM](#) で構成されます。旧式の DIMM には [FPM/EDO](#) を使用する物があり、これは 5V でのみ動作します。これは SDRAM DIMM と混同できません。

ECC (エラーチェックおよび訂正)

ECC モードは 64 ビットのデータに対し、8 ECC ビットが必要です。メモリにアクセスされる度に、ECC ビットは特殊なアルゴリズムで更新、チェックされます。パリティモードでは単ビットエラーのみが検出可能であるのに対し、ECC アルゴリズムは複ビットエラーを検出、単ビットエラーを自動訂正する能力があります。

EDO (拡張データ出力)メモリ

EDO DRAM テクノロジーは FPM (ファストページモード)と酷似しています。保存準備動作を開始し 3 サイクルでメモリデータ出力する従来の FPM とは異なり、EDO DRAM はメモリデータを次のメモリアクセスサイクルまで保持する点で、パイプライン効果に類似し、1 クロックモードの節約となります。

EEPROM (電子式消去可能プログラマブル ROM)

これは E²PROM とも呼ばれます。EEPROM および [Flash ROM](#) は共に電気信号で書き換えができませんが、インタフェース技術は異なります。EEPROM のサイズはフラッシュ ROM より小型で、AOpen マザーボードではジャンパーレスおよびバッテリーレス設計実現のため EEPROM を使用しています。

EPROM (消去可能プログラマブルROM)

従来のマザーボードでは BIOS コードは EPROM に保存されていました。EPROM は紫外線(UV)光によってのみ消去可能です。BIOS のアップグレードの際は、マザーボードから EPROM を外し、UV 光で消去、再度プログラムして、元に戻すことが必要でした。

FCC DoC (Declaration of Conformity)

DoC は FCC EMI 規定の認証規格コンポーネントです。この規格により、シールドやハウジングなしで DoC ラベルを DIY コンポーネント (マザーボード等)に適用できます。

FC-PGA

FC とはフリップチップの意味で、FC-PGA は Intel の Pentium III CPU 用の新しいパッケージです。これは SKT370 ソケットに差せますが、マザーボード側で 370 ソケットへの追加信号を送る必要があります。これはマザーボードに新たな設計が必要であることを意味します。Intel は FC-PGA 370 CPU を出荷し、slot1 CPU は徐々に減少するでしょう。

フラッシュ ROM

フラッシュ ROM は電気信号で再度プログラム可能です。BIOS はフラッシュユーティリティにより容易にアップグレードできますが、ウィルスに感染し易くもなります。新機能の増加により、BIOS のサイズは 64KB から 256KB (2M ビット)に拡大しました。AOpen AX5T は最初に 256KB (2M ビット)フラッシュ ROM を採用したマザーボードです。現在、フラッシュ ROM サイズは AX6C (Intel 820) および MX3W (Intel 810)マザーボードのように 4M ビットへと移行中です。

FSB (フロントサイドバス)クロック

FSB クロックとは CPU 外部バスクロックのことです。

CPU 内部クロック = CPU FSB クロック x CPU クロックレシオ

I2C Bus

[SMBus](#)をご覧ください。

P1394

P1394 (IEEE 1394)とは、高速シリアル周辺用バスの規格です。低速または中速の[USB](#)とは異なり、P1394 は 50~1000Mbit/s をサポート、ビデオカメラ、ディスク、LAN にも使用可能です。

パリティビット

パリティモードは各バイトに対して1パリティビットを使用し、通常はメモリデータ更新時には各バイトのパリティビットは偶数の"1"が含まれる偶数パリティモードとなります。次回メモリに奇数の"1"が読み込まれるなら、パリティエラーが発生したことになり、単ビットエラー検出と呼ばれます。

PBSRAM (パイプラインドバースト SRAM)

Socket 7 CPU では、1回のバーストデータ読み込みで4QWord (Quad-word, $4 \times 16 = 64$ ビット)が必要です。PBSRAMは1つのアドレスデコード時間が必要なだけで、残りのQwordsのCPU転送は予め決められたシーケンスで行われます。通常これは3-1-1-1の合計6クロックで、非同期SRAMより高速です。PBSRAMはSocket 7 CPUのL2 (level 2) キャッシュにたびたび使用されます。Slot 1およびSocket 370 CPUはPBSRAMを必要としません。

PC100 DIMM

[SDRAM](#) DIMMのうち、100MHz CPU [FSB](#)バスクロックをサポートするものです。

PC133 DIMM

[SDRAM](#) DIMMのうち、133MHz CPU [FSB](#)バスクロックをサポートするものです。

PDF フォーマット

電子式文書の形式の一種である PDF フォーマットはプラットフォームに依存しないもので、PDF ファイル読み込みには Windows, Unix, Linux, Mac ...用の各 PDF Reader を使用します。PDF ファイル表示には IE および Netscape のウェブブラウザも使用できますが、この場合 PDF プラグイン (Acrobat Reader を含む)をインストールしておく必要があります。

PnP (プラグアンドプレイ)

PnP 規格は BIOS およびオペレーションシステム (Windows 95 等)の双方に標準レジスタインタフェースを必要とします。これらレジスタは BIOS とオペレーションシステムによるシステムリソースの設定および競合の防止に使用されます。IRQ/DMA/メモリは PnP BIOS またはオペレーションシステムにより自動割り当てされます。現在、PCI カードのほとんどおよび大部分の ISA カードは PnP 対応済です。

POST (電源投入時の自己診断)

電源投入後の BIOS の自己診断手続きは、通常、システム起動時の最初または 2 番目の画面で実行されます。

RDRAM (ラムバス DRAM)

ラムバスは大量バーストモードデータ転送を利用するメモリ技術です。理論的にはデータ転送速度はSDRAMよりも高速です。RDRAM チャンネル操作でカスケード処理されます。Intel 820 の場合、1つの RDRAM チャンネルのみが認められ、各チャンネルは 16 ビットデータ長、チャンネルに接続可能な RDRAM デバイスは最大 32 であり、RIMMソケット数は無関係です。

RIMM

184-pin memory module that supports RDRAMメモリ技術をサポートする 184 ピンのメモリモジュールです。RIMM メモリモジュールは最大 16 RDRAM デバイスを接続できます。

SDRAM (同期 DRAM)

SDRAM は DRAM 技術の一つで、DRAM が CPU ホストバスと同じクロックを使用するようにしたものです (EDO および FPM は非同期型でクロック信号は持ちません)。これはPBSRAMがバーストモード転送を行うのと類似しています。SDRAM は 64 ビット 168 ピンDIMMの形式で、3.3V で動作します。AOpen は 1996 年第 1 四半期よりデュアル SDRAM DIMM をオンボード(AP5V)でサポートする初のメーカーとなっています。

SIMM (シングルインラインメモリモジュール)

SIMM のソケットは 72 ピンで片面だけです。PCB 上のゴールドフィンガーは両側とも同じです。これがシングルインラインと言われる所以です。SIMM は FPM または [EDO DRAM](#) によって構成され、32 ビットデータをサポートします。SIMM は現在のマザーボード上では徐々に見られなくなっています。

SMBus (システムマネジメントバス)

SMBus は I2C バスとも呼ばれます。これはコンポーネント間のコミュニケーション(特に半導体 IC)用に設計された 2 線式のバスです。使用例としては、ジャンパーレスマザーボードのクロックジェネレーターのクロック設定があります。SMBus のデータ転送速度は 100Kbit/s しかなく、1 つのホストと CPU または複数のマスターと複数のスレーブ間でのデータ転送に利用されます。

SPD (シリアルプレゼンス検出)

SPD は小さな ROM または [EEPROM](#) デバイスで [DIMM](#) または [RIMM](#) 上に置かれます。SPD には DRAM タイミングやチップパラメータ等のメモリモジュール情報が保存されています。SPD はこの DIMM や RIMM 用に最適なタイミングを決定するのに [BIOS](#) によって使用されます。

Ultra DMA/33

これは IDE コマンド信号の立ち上がりのみを使ってデータ転送する従来の PIO/DMA モードとは異なります。UDMA/33 は立ち上がりと下降時の双方を利用するので、データ転送速度は PIO mode 4 または DMA mode 2 の 2 倍になります。

16.6MB/s x2 = 33MB/s

USB (ユニバーサルシリアルバス)

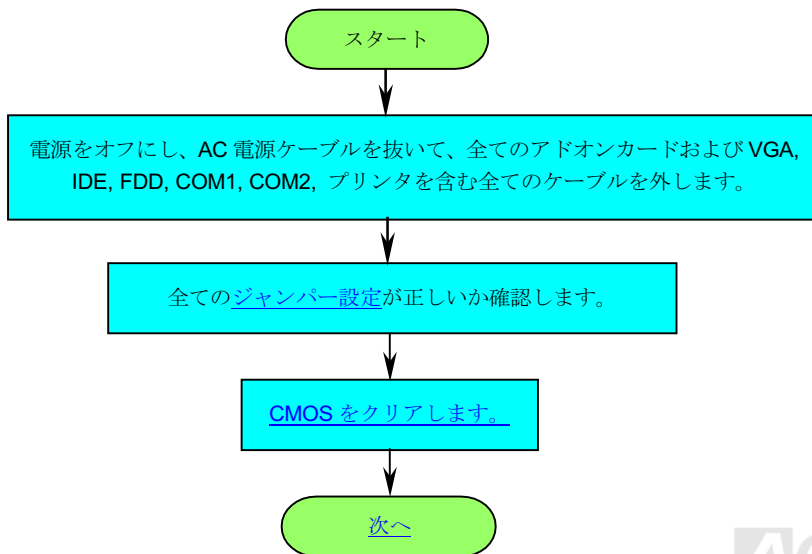
USB は 4 ピンのシリアル周辺用バスで、キーボード、マウス、ジョイスティック、スキャナ、プリンタ、モデム等の低・中速周辺機器 (10Mbit/s 以下) がカスケード接続できます。USB により、従来の PC 後部パネルの込み入った配線は不要になります。

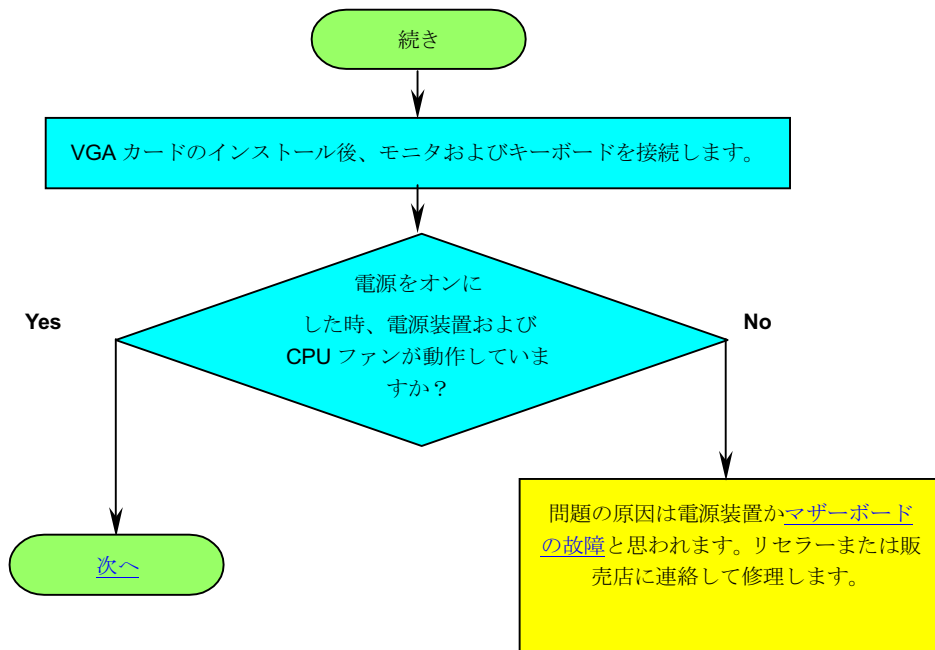
ZIP ファイル

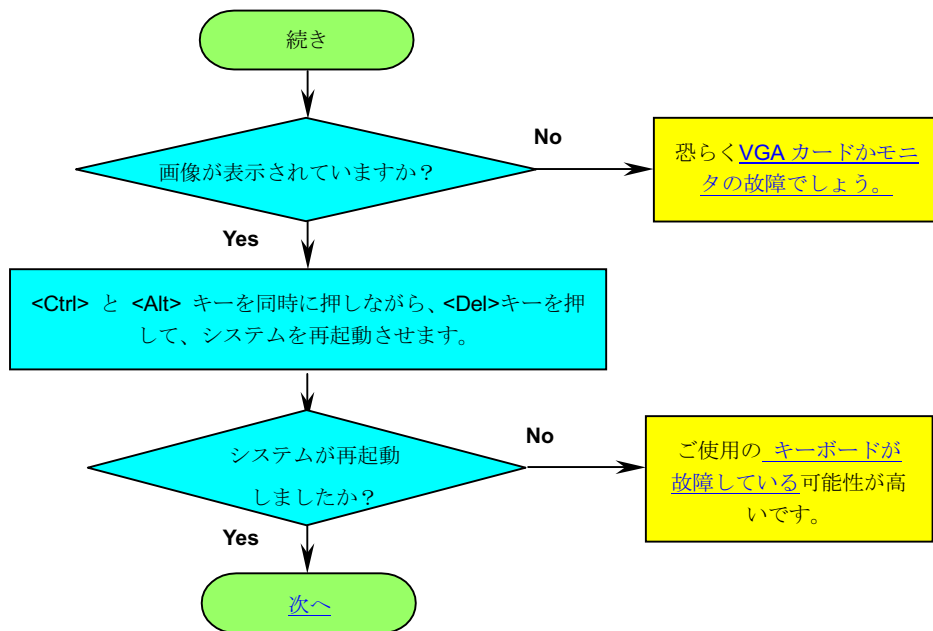
ファイルサイズを小さくするよう圧縮されたファイル。ファイルの解凍には、DOS モードや Windows 以外のオペレーションシステムではシェアウェアの PKUNZIP (<http://www.pkware.com/>) を、Windows 環境では WINZIP (<http://www.winzip.com/>) を使用します。

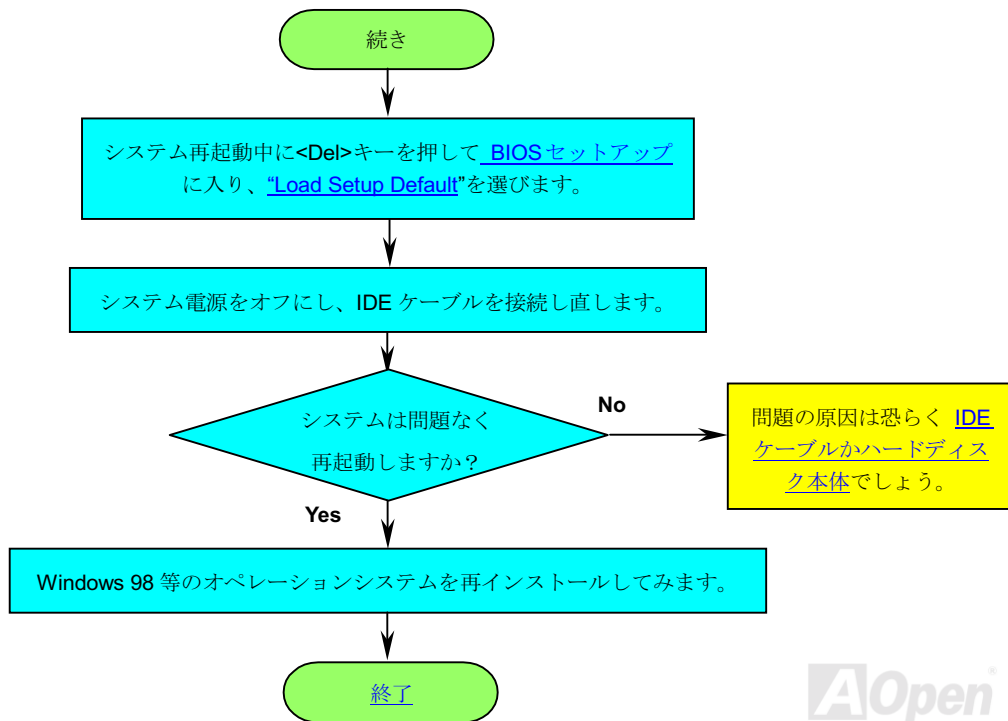


トラブルシューティング











テクニカルサポート

お客様各位

この度は AOpen 製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。お客様への最善かつ迅速なサービスが弊社の最優先するところでございます。しかしながら毎日いただく E メールおよび電話のお問合せが世界中から無数にあり、全ての方にタイムリーなサポートをご提供いたすのは困難を極めております。弊社にご連絡になる前に下記の手順で必要な解決法をご確認になることをお勧めいたします。皆様のご協力で、より多くのお客様に最善のサービスをご提供させていただきます。

皆様のご理解に深く感謝いたします。

AOpen テクニカルサポートチーム一同

1

オンラインマニュアル : マニュアルを注意深く読み、ジャンパー設定およびインストール手順が正しいことを確認してください。

<http://www.aopen.com.tw/tech/download/manual/default.htm>

2

テストレポート: PC 組立て時の互換性テストレポートから board/card/device の部分をご覧ください。

<http://www.aopen.com.tw/tech/report/default.htm>

3

FAQ: 最新の FAQ (よく尋ねられる質問)からトラブルの解決法が見つかるかもしれません。

<http://www.aopen.com.tw/tech/faq/default.htm>

4

ソフトウェアのダウンロード: 下表からアップデートされた最新の BIOS またはユーティリティ、ドライバをダウンロードしてみます。

<http://www.aopen.com.tw/tech/download/default.htm>

5

ニュースグループ: 発生したトラブルの解決法が、ニュースグループに掲載された弊社のサポートエンジニアまたはシニアユーザーのポスティングから見つかるかもしれません。

<http://www.aopen.com.tw/tech/newsgrp/default.htm>

6

販売店、リセラーへのご連絡: 弊社は当社製品をリセラーおよびシステム設計者を通して販売しております。ユーザーのシステム設定およびそのトラブルに対して先方が弊社より明るい可能性があります。またユーザーへの対応の仕方が次回に別の製品をお求めになる際の参考ともなるでしょう。

7

弊社へのご連絡: ご連絡に先立ち、システム設定の詳細情報およびエラー状況をご確認ください。**パーツ番号、シリアル番号、BIOS バージョン**も大変参考になります。

パーツ番号およびシリアル番号

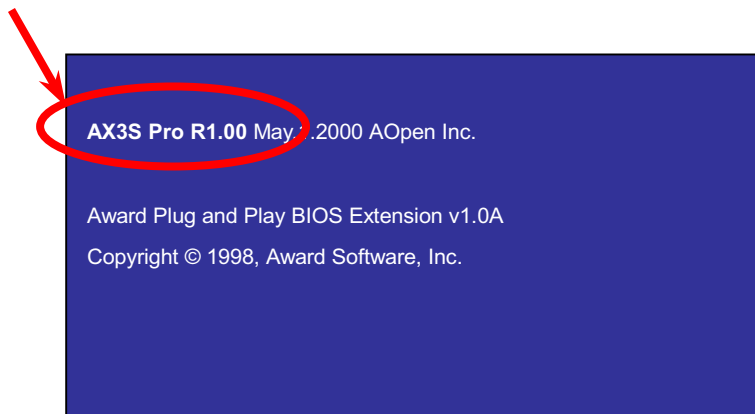
パーツ番号およびシリアル番号はバーコードラベルに印刷されています。ラベルは包装の外側、ISA/CPU スロットまたは PCB のコンポーネント側にあります。以下が一例です。



P/N: 91.88110.201 がパーツ番号で、**S/N: 91949378KN73** がシリアル番号です。

型式名およびBIOS バージョン

型式名および BIOS バージョンは最初の起動画面([POST](#) 画面)の左上に表示されます。以下が一例です。



AX3S Pro がマザーボードの型式名で、**R1.00** が BIOS バージョンです。

ウェブサイト: <http://www.aopen.com>

Eメール : 下記のご連絡フォームをご利用になりメールでご連絡ください。

英語 <http://www.aopen.com.tw/tech/contact/techusa.htm>

日本語 <http://aojp.aopen.com.tw/tech/contact/techjp.htm>

中国語 <http://w3.aopen.com.tw/tech/contact/techtw.htm>

ドイツ語 <http://www.aopencom.de/tech/contact/techde.htm>

簡体字中国語 <http://www.aopen.com.cn/tech/contact/techcn.htm>

TEL:

米国	650-827-9688
オランダ	+31 73-645-9516
中国	(86) 755-375-3013
台湾	(886) 2-2696-1333
ドイツ	+49 (0) 2102-157-700